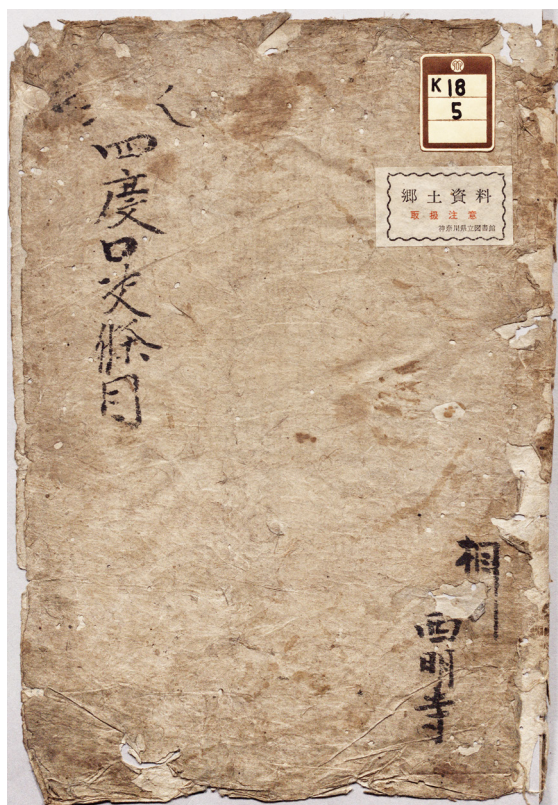


資料紹介「四度口訣条目」(付「听書」)

資料課 山本 順也



はじめに

当館には、中世の書写になる聖教(仏教の經典類)が二点所蔵されている。一点は「印融法印筆 西院流血脈」⁽¹⁾で、もう一点は「四度口訣条目」⁽²⁾である(以下「条

目」と略す)。いずれもとは東寺真言宗最明寺(大井町)に伝来したもので、現状は虫損が甚大なものである。

前者についてはすでに田島光男氏が翻刻紹介しており、筆跡から印融の手になるものでないことが指摘されている⁽³⁾。本稿では、後者の「条目」およびそれに付随している宗識筆「听書(聞き書き)」を翻刻紹介するものである。「听書」の筆跡の特徴から、「条目」の筆者も宗識と判明する。

翻刻にあたっては、虫損箇所が多いため「四度肝心鈔」⁽⁴⁾、「四度次第肝心鈔」⁽⁵⁾、「真言修行鈔」⁽⁶⁾を対校に用いた。いずれも本文の随所に異同がみられるが、底本は後述するように大須文庫で著名な真言宗智山派北野山真福寺(名古屋市)僧政祝が永享8(1436)年に著した「四度肝心抄」である。これは「大須経蔵目録」⁽⁷⁾中に確認されるが、今回同文庫に収蔵されるこの原本にはあたらなかった。異本の多い書写本の体系的研究には、原本との比較は重要な作業であり、今後に期したい。

1. 「四度口決条目」の基礎情報

まず、本資料の書誌情報を以下に記す。

「四度口決条目」

16世紀の写本、宗識筆、縦23.6センチメートル×横16.0センチメートル、楮紙、粘葉装、1冊、表、裏表紙共67丁、(表紙墨書)「四度口決條目／相州西明寺」。

なお、後補の帙外題には「相州西明寺本／家録古抄四度口決条目」、同背表紙に「相州西明寺本 家録古抄四度口決条目」と後筆で記される。

「听書」

永禄8(1565)年11月28日付宗識筆、縦24.7センチメートル×横32.9センチメートル、楮紙、折紙、1通。ただし日付は「永禄八年甲子霜月廿八日」とあるが、この年は乙丑で、甲子ならば同7年に該当する。ここではとりあえず永禄8年と考えてすすめていく。

次に「条目」の内容と構成について、少し触れておく。日本密教にとって基本とされる修行法に、四度加行がある。これは伝法灌頂(阿闍梨という正式な僧侶の位を授

かるための儀式)を受けるための、前段階としての儀式といったものである。四段階から構成され、最初に十八道念誦次第、ついで金剛界念誦次第、胎藏界念誦次第、護摩となつている。これらを総じて四度加行次第といい、次第とは作法の段取りを意味している。「条目」や対校本に用いた抄本三本のような抄物は、次第の中から重要なものを取り上げ、それに対する解説や、他の儀軌(儀式)の作法を定めたものや口伝等からの引用を付したものである。この抄本を書写する場合、抜け落ちて重要な事項等があればさらに追加することもある。よって書写するたびに、少しずつ原本とは異なった記述が増えていくことになりうる。「条目」では、冒頭に標目と呼ばれる次第の箇条書きが記され、つづく本文ではその中から抄出された標目の内容が記されていく。以上が、「条目」のおおよその内容と構成である。

最後に補足ではあるが、底本となった「四度肝心抄」の著者政祝は、真福寺宝生院第四世とされ、出自等詳細は不明である。事教二相(実践と教義の両方)に通じ、多く

の著作をあらわしたことで知られる⁽⁸⁾。同寺は鎌倉時代に
はじまる中島観音堂(現岐阜県羽島市)を前身とし、元弘
3(1333)年に後醍醐天皇が能信上人⁽⁹⁾に深く帰依し、
同上人に北野山真福寺福生院として開創させたことには
じまるという。慶長17(1612)年、家康により現在地
に移されたという。能信上人は高野山や関東(武州高幡
不動堂等)に求学し禅や律(僧侶の規則や戒律)、密教お
よび神道を修め、さらには歌人としても知られたとい
う。現在の大須文庫の基礎は、この能信上人によつてつ
くられた。いわば学問所としての性格が濃いのである。

2. 宗識について

次に筆者の宗識について簡単にみてみよう。宗識も詳
細の不明な人物であるが、いくつか書写本が確認でき
るので紹介しておく。

高野山真別所⁽¹⁰⁾円通寺蔵(高野山大学図書館寄託)「西院
血脈」⁽¹¹⁾は、その奥書によれば、文明19(1487)年3月
21日に印融が書したものを底本として、複数回の書写を

経て享保17(1732)年に仏子空慧⁽¹²⁾が書写したものであ
る。その最初の書写は「永禄八年四月十一日於南山宝幢
院右三帖印融御自筆本申請書写畢 宗識増寛⁽¹³⁾」というも
のであった。ここにある宗識増寛と「条目」の筆者は同一
人物と考えてよいだろう。この奥書からすると、宗識は
高野山宝幢院にて印融筆「西院血脈」を書写し、永禄8年
4月11日に完了したことがわかる。さらに注目されるの
は、毘沙門堂本「古今集注口伝鈔」⁽¹⁴⁾である。この奥書に「永
正丙子年五月日 宗識記之」とあり、永正13(1516)
年5月に宗識が書写し終えたものであることがわかる。
これは画像にて原本が確認でき、筆跡が「条目」のそれと
一致することから、これも同一人とみて間違いなかる
う。これらのことから、宗識は書写活動を通して宗教や
文化面にかかる典籍の蓄積をはかった学僧といえるだろ
う。彼は従来あまり知られていない人物だが、今後さら
に彼の写本が見つかる可能性があり、まずは一人の真言
僧の足跡をたどることから、その周辺の法流や僧集団の
ネットワークを把握することができると可能性を指摘して

おきたい。

3. 「四度口決条目」と「听書」の関係

それでは「条目」と「听書」には、どのような関係があるのだろうか。「听書」の内容は、護摩(壇)に関する詳細な抄出記事を八か条に分けて記したものである。「条目」との関連でみると、同書の標目「息災護摩ノ壇様事」(本稿124頁下段)の本文には、檀木だんぼくと乳木にゅうもく(いわゆる護摩木)のサイズをそれぞれ「八寸四分」「六寸」とし、これは「周尺也」と記す。「モコシ」は「モロコシ」のことであろうが、要はこの寸尺は古代中国の度量衡に則ったものだと言っているのである。これを受けて「听書」の第一条目は、日本の番匠が用いる曲尺かねじやく1尺に対し、周の曲尺では1尺が日本の8寸にあたるので、これを考慮して諸事をはかることと記している。この冒頭的一条目だけをみても、宗識がかなり精緻な記述に徹しようとしていることがうかがえる。二、三条目も壇に関わる細かな部分のサイズや作法が記されている。特に三、五、七条目には、壇に

引く五色の糸の縫り方(左巻か右巻か等)、引き方、色の配置の順番やそのいわれ(根拠)等が事細かに示されている。これは「条目」本文の標目「五色糸引様」(本稿127頁上段)に対応するもので、本文中には全く触れられていない内容である。こうした宗識の抄本書写の姿勢には、より精緻な記述と根拠を徹底して追求していく様子うかがわれるのである。このことから、「听書」は「条目」の不備を補う目的で抄出された書付となっていることがわかる。

こうした宗識の姿勢を理解すれば、「条目」本文にもその傾向が見て取れる。一例をあげれば、標目の「大金剛輪真言事」(本稿110頁下段)は対校本三本とも本文に記載があるが、宗識は本文中に標目のみをあげ、その下に朱書で「△」を記して以下省略している。これは対校本いずれにも「次第除諸越法等重罪云々、此真言儀軌不説、然補闕分真言故必用之」とあり、諸越法等の重罪(密教を学ぶ前に、無許可に灌頂を授受すること等)を除くもので、この真言は儀軌には説いていないが、欠落している

分の真言を補うものなので、必ず用いることとされている。非常に重要な真言のはずなのだが、宗識はこれを書写していない。宗識の精緻な記録態度からすれば、これは省略したのではなく、むしろ儀軌に説かれていないために、何らかの根拠を他に求めようとして保留している可能性がある。こうした姿勢に、宗識の学僧としての価値が見いだせるのである。

結語

聖教研究の歴史学者側からのアプローチとして、永村真氏や上川通夫氏の業績があげられる¹²⁾。ここではまず聖教の分類から、古文書と聖教の分類化が提案され、中世において聖教が寺院や法流にとつてその存続にかかわる重要なものとして守られつづけてきたこと、政治史とといった歴史学の対象となりうることなどが指摘されている。さらに近年では、歴史学会でも聖教が歴史史料として価値あるものとして認識されるようになってきている¹³⁾。

こうした傾向の中、最後に聖教が守り続けられてきた事例を二つあげておきたい。

一つは高野山に相承されてきた西院流は、江戸初期に断絶したといわれ、その後御室仁和寺から復興伝承されたとされる¹⁴⁾。こうしたことが可能だった一つの理由は、聖教がしっかりと保管されてきたことがあげられるだろう。

二つ目に、天台系寺院の近江国比牟礼山成就寺(現願成就寺 近江八幡市)の*大般若経*第四一六卷他識語には、元亀2(1571)年に織田信長による延暦寺焼き討ちの際成就寺も焼かれたが、同寺に仕える小姓らが*大般若経*を避難させようとして五巻分を取り散らして失ってしまったことが記されている。寺伝では、この小姓らは普段から緊急事態にあたって、*大般若経*を持ち出す役割を担っていたという¹⁵⁾。

これらの事例からうかがえるように、寺院における聖教は法流の再興や地域社会の宗教文化に重要な役割をもっており、それゆえにしっかした保存、管理と、緊急

事態への備えが整備されていたことを示すものである。
う。

注

- (1) 資料ID:2200930506
- (2) 資料ID:2199303253 なお、当館のデータベース資料概要欄によれば、本書には「宗織の書付、貼付あり」とある。本稿では、この書付の原題をとって「听書」とするが、現状では別の封筒に入られており、「四度口決条目」のどの部分に貼付されていたのかは不明である。
- (3) 「西院流伝法灌頂相承血脈鈔について」(『三浦古文化』40号)。田島氏は資料名を「西院流伝法灌頂相承血脈鈔」としているが、そもそも表紙には原題が記されず、後補の帙に貼付題箋にて「印融法印筆 西院流血脈」と後筆されている。当館のデータベースには、この後筆の名称で登録されているので留意されたい。抄本等では資料名が一定していないことが多いので、こうしたケースでは資料Dを用いるのがよいと思われる。
- (4) 善通寺宝物館蔵、1冊。16〜17世紀ごろの写本と思われる。画像は国文学研究資料館国書データベース(ID:10038312)によった。
- (5) 善通寺宝物館蔵、1冊。江戸時代の写本。国文学研究資料館国書データベース(ID:100192850)参照。
- (6) 東洋大学附属図書館蔵、全4冊。版本。奥書に「延宝三乙卯歳潤四月吉辰／高橋清兵衛開版」とある。なお、稲谷祐宣『真言

宗事相解説』(東方出版 1996年)に紹介される「四度次第肝心鈔」の口語訳は、この版本によっている。同館データベース(ID:300094210)参照。

(7) 国文学研究資料館 編『真福寺善本叢刊』第一巻(臨川書店 1999年)

(8) 『日本仏教人名辞典』(新人物往来社 1986年)。政祝の生没年も本辞典や、鈴木快聖編『大須観音真福寺略史』(浜島書店 1954年)とで大きく異なり不詳である。少なくとも政祝が「四度肝心抄」を永享8年に著しているので、没年を永享11年以降としている本辞典の記載が妥当なくらいである。

(9) 以上、真福寺や能信上人の記述は、前掲注(8)『大須観音真福寺略史』によった。

(10) 『統真言宗全書』第25。なお、横浜市歴史博物館特別展図録『中世よこはまの学僧 印融 戦国に生きた真言密教僧の足跡』(1997年)には、当該奥書部分の写真が掲載されている。

(11) 京都大学附属図書館蔵、京都大学貴重資料デジタルアーカイブ(ID: RB00013137)。

(12) 永村真『中世寺院史料論』(吉川弘文館 2000年)、上川通夫『日本中世仏教史料論』(吉川弘文館 2008年)

(13) 最近では『日本史研究』第725号(2023年)にて、「寺院聖教の世界」として特集されている。

(14) 甲田宥咩「親王院本『西院血脈』」(『高野山大学密教文化研究所紀要』16号 2003年)

(15) 『近江八幡の歴史』第6巻(近江八幡市 2014年)。前掲注(12)上川氏著には、火災等の災害時に本尊だけでなく、聖教も優

先に救出されたこと、その管理体制の実態についての石山寺、醍醐寺等の事例をあげている。

〔翻刻凡例〕

- ・あきらかな誤植等については（ ）で補足した。
- ・朱書については「^{朱書}」として示した。
- ・虫損、誤字による判読不能の箇所は、文字数がわかるものは□で、文字数が不明なものは「」で示した。
- ・ふせ字については、各流により異なるようだが、便宜上下記の通りあらためている。
- イル↓儀軌 ウ↓密 サ↓荘 ム↓巖 介↓金剛
- ・種子の表記はカタカナ、斜字にてあらためた。

〔翻刻〕四度口決条目

〔^{紙外題}〕相州西明寺本

家録古抄四度口決條目

〔^{表紙}〕

相州西明寺

四度口決條目

- 四度次第作者事
- 四度次第口決事
- 加行者用心事
- 汲闕伽水作法事
- 五瓶ニ立花事
- 四度次第数事
- 五筒^簡度加行日数事
- 闕伽水名花水ト事
- 備六種供具ヲ次第事
- 行法時分事

加行中ニ懸本尊号事	加行ノ壇様事	蓮花座ノ事	鈴ノ音ノ功德事
初行ノ時ノ仏供事	十八道ノ加行事	奄字供養ノ明ノ事	摩尼供養真言事
両界礼懺作者事	十八道次第出所事	三力偈ノ事	入我々入ノ事
十八道ノ立名事	行者三業ヲ浄事	大中小ノ三咒事	百八煩惱ヲ遠離スル事
行者拜見本有諸仏 <small>一</small> ヲ事	五体投地ノ礼拜ノ事	正念誦ノ遍数事	仏眼真言ノ事
六種拳四種拳ノ事	十二ノ合掌ノ事	一字金輪真言事	解界ノ因由ノ事
結 <small>（翻）</small> 跌坐等事	五分法身事	撥遣ノ印明ノ事	印仏読経等事
三密觀事	浄三業ノ真言事	已上六十条十八道次第分	
護身法ノ印明出所事	軍茶種 <small>（利）</small> ノ小咒事	金剛界次第出所事	金剛頂経事
重々散杖ノ事	灑水ニ入香ヲ用事	無能勝明王事	無上法医王ノ事
百六十心戲論ノ事	独三五鉢等ノ事	加持供物ノ印明事	蓮花部心已不三印ノ事
浄地觀解ノ事	金剛起印明ノ事	四礼四仏ノ事	四無量觀事
表白ノ時取香呂ヲ事	三代聖靈ノ事	勝願段四礼 <small>（種）</small> ノ藏性事	開心入智合智ノ事
普賢行願事	勸請ト発願トノ事	極喜三昧耶ノ事	降三世明王ノ事
大金剛輪ノ真言ノ事	金剛座事	大欲乃至業障除事	五相浄身事
横豎ノ結界事	道場觀ノ事	四仏加持等ノ事	現智見智二身事
如意輪殊勝ナル事	小金剛輪ノ印明事	成仏亦名陳三昧耶事	道場觀事
宝車輅等ノ事	闍伽香水ノ事	小金剛輪等ノ事	百八名讚ノ事

送車輅請車輅ノ事
不動結界事
成身会ノ事
羯磨会ノ事
三昧耶会ノ事
大供養会ノ事
四印会事
一印会ノ事
摩尼供養ノ事
四智讚ノ事
仏眼印ノ事
入我々入段ノ一身四面ノ事
正念誦ノ事
字輪観ノ事
宝印等事
已上金剛界次第分三十五条
胎藏界次第出所事
助修人事
九方便ノ事
始^(胎)ノ三部観ノ事
行者為地神^一事
住法界平等観ノ事
秘密八印ノ事
遍智院事
観音院ノ事
薩埵院ノ事
持明院ノ事
釈迦院事
文殊院ノ事
除蓋障院ノ事
地藏院ノ事
虚空蔵院事
蘇悉地院事
外金剛部院事
七曜九執十二宮神ノ事
二十八宿ノ事
四方四大護院事
二守護門ノ事

如来身会ノ事
送請車輅事
本尊加持并正念誦ノ事
讚善^(普)供養後鈴等事
已上二十六条胎藏界次第分
護摩次第ノ事
作壇略作法ノ事
護摩壇時ノ十二天懸次第事
木像^{五大尊之事} 息災護摩ノ壇様事
画像五大尊懸次第事
調伏護摩壇様ノ事
増益護摩壇様等事
敬愛ノ護摩壇等ノ事
鉤召護摩壇様等事
外護摩ト内護摩トノ事
延命護摩壇様等事
火天^ノ段十二天ノ事
大小杓三度ノ事
本尊段^(マ)百八支ノ乳木ノ事
芥子加持等ノ事
二段五段護摩事
九種供物ノ事
加持物等事
九種相応ノ護摩事
塗火爐^ニ次第事
五色糸引様事
護摩中ノ用心ノ事
為亡者修護摩事
破壇作法ノ事
五大尊異名ノ事
已上二十六条護摩次第分
四度次第分合シテ百四十七条如形注畢、此レハ三宝院口伝
及頼瑜法印四度口決等ノ上ニ微隠ナル処ヲ少々記之^(義)、

智教^(忠)或極秘密義有之故努々不可他見云々

四度次第肝心鈔^(授カ)唯抄^(授カ)少僧都 政祝集之

四度ノ次第ノ作者ノ事

一石山淳祐ノ作ノ四度次第ヲハ石山勸修寺ニ用之、一二ハ延命院ノ元杲ノ作四度次第ヲハ東寺・醍醐寺及諸国用之ヲ

四度次第ノ数事

聖如意輪念誦次第、金剛界念誦次第、胎藏界ノ念誦次第、不動護摩私記、已上四條^(結)ハ延命院元杲作也、十八道加行作法、十八道初行表白神分等、散念誦次第、入道場次第、金剛界加行表白、金剛界初行表白、胎藏界加行表白、胎藏界初行表白、不動護摩初行表白、神供作法、百光遍照図、已上成賢僧正作也、胎藏界道場觀大谷覺俊阿闍梨記也

已上十八帖ハ東南院ノ宮ヨリ信瑜僧都相伝ノ本也、此外ニ御作ノ兩界次第等有之一、又成賢ノ作ノ十八道兩界ノ頸次第等有之、又覺琳阿闍梨ノ種三尊ノ兩界次第等有之一、又円城寺次第等有之云々

四度次第口伝決事

実賢僧正作ノ師伝抄四卷、頼瑜法印作ノ四度神供、口決五卷、教舜ノ記ノ十八道口伝上下二卷、三宝院四度聞書^(有之)云々

五箇度ノ加行ノ日数事

実賢僧正御口決云、十八道加行百日三時畢テ次第ノ伝受立印スヘシ、後ニ無退転^(暗誦)一暗誦セヨ、々々後ニ対師次第^(ムカツテ)一交勘セヨ、^(交勘)々々後ニ初行一七日スヘシ、^(一七日)々々後ニ又可始^(一)二百日三時ノ加行^(一)也、兩界護摩ノ伝授立印等ノ作法モ皆以如此初行護摩一七日ノ後^(二)ニ為^(二)灌頂加行ノ千日護摩ヲ可燒^(一)、若シハ百日隨機^(一)可依時^(二)云々

加行者用心ノ事

実賢僧正御口決云、可禁断事穩便ヲ為宗^(一)精進^(一)為業^(一)不好^(二)武勇^(一)不^(レ)帶^(二)刀劍^(一)念誦袈裟ヲ常^(二)随^(レ)身^(一)念誦經論ヲ恐身口ノ七罪^(一)ヲ、学^(二)頭密諸教^(一)、入^(二)堂社^(一)參師命扠塵ヲ信力堅固ニシ智恵深妙ラン人ヲ可^(レ)為^(二)真言機^(一)也云々、七罪者殺生^(忠)偷盜邪嬖忘語綺語惡口兩舌等云々

闍伽水ヲ名花水ト事

闍伽者此云^(二)無垢^(一)也、道範記云、寅一点ニ水花開故取彼

清淨ノ花一水一用ニ供養法ニ故云ニ花水ト云々、終南山ノ道宣ノ云、後夜ノ水ニハ未生虫一故云無垢水ト云々、或秘決云、日出ヌレハ引光焰ニ水昇天一没日水冷メ天ヨリ下刃ノ終リ寅ノ始ニハ水円満シテ澄静ナリ、取ニ彼ノ時一表ニ自証化他円満ノ相一也、其故ハ上ル水ヲ譬自証一、下ル水ヲ類化他一也、水澄潔ナリ、此ヲ喩ニ自証化他ノ成道ノ至極円満一也云々

汲闕伽水一作法事

懸七条至ニ闕伽井ノ辺一^ニ向北方水天ノ方一^ニ護身法ノ次汲水一^ヲ洗闕伽桶一^ヲ二度、然シテ後ニ又汲水ニ入闕伽桶一^ニ還テ於闕伽棚一入香一^ヲ覆蓋ヲ東寺・醍醐等ニハ大都以銅一^ヲ鑄イテ之^ニ為ニ闕伽桶一^ト、此レニ有蓋并ニ鑲手繩一^ヲ大都田舎ニハ木桶也、雖ニ木桶一^{ナリ}必有蓋一、已上実賢僧正御口決ト云々

備六種供具次第事

立ニ先ツ灯一^ヲ、次ニ盛米一^ヲ々々水ニテ能々洗テ干日一^ニ入ニ仏供箱一^ニ、以テ杓子一^ヲ盛之^一、以テ手一^ヲ不可盛之^一、次盛香一^ヲ、次闕伽器ヲ六重テ於闕伽折敷一^ニ、至闕伽棚一^ニ洗三度一、闕伽折敷ノ上ニ左右ニ三ツ、並ヨ、次ニ前ノ二ノ器ニ水ヲ三分

一計カリ入ヨ之一、次ニ取花ヲ八葉一、末二ノ器四葉ツ、順ニ並ヨ、次取ニ花ヲ二葉一^中ヨリ折テ末闕伽器ニ二一ツ、入ヨ、次ニ本折目ニ指香一^中ノ器ニ一ツ、入ヨ、或ハ本ヲ中ノ器ニ一ツ、入ヨ、其上ニ盛香一^ヲ為此ノ三寶院ニハ小管香ヲ置前供養ノ壇ノ角一^ニ也、次ニ至壇前一^ニ々供養ノ方ニ闕伽、塗香、花鬘ト居之^一、後供養ノ方ニ闕伽、塗香、花鬘ト居之^一也、但此供養法ノ時ノ作法也、礼拝加行ノ間ハ房花ヲ両ノ花鬘ノ器ニハ四房ツ、四器ニハ各一房ツ、也、若重受ノ人ナラハ礼拝加行ノ時モ如ニ常ノ供養法ノ時一^ノ云々、憲深僧正口決云、一器ニ盛^{コト}ハ四葉一^ヲ左右合シテ表八葉蓮台一^トハ意也、或ハ最略ニハ前三葉、後四葉也、後ノ一葉ハ為投花也、但二説中常ニハ付前ノ説一^ニ、万一後一葉取^ヲ落^ラ前供ノ一葉ヲ取テ投花一^ニ云々、頼心口決云、六器ヲ三度洗テ上ナル器ニ入水一、前供養ノ方ニ闕伽、塗香、花鬘ト居テ、上ナル水ヲ闕伽器入半分、次ニ後供養ノ方ニ闕伽、塗香居テ、上ナル水ヲ闕伽器ニ入テ、水ノ入タル器ヲ花鬘器ニセヨト云々、或口決云、六器ヲ前供養ノ方ニ花鬘、塗香、闕伽ト居テ上ナル水半分入、後供養方花鬘、塗香、闕伽ト居ト云々、多

說中ニ以初義^一ヲ為本ト云々、已上東南院宮ノ御口決云々

五瓶ニ立花^一ヲ事

初行ノ時ハ一七日ノ内ニ初中後ニ可^二替立^一テ、加行ノ時ハ七
日々々^(七日)可立替^一、千日護摩ノ時ハ十日々々^(十日)ニ可立替^一也、
密風情ノ花^一ヲ立時ハ中瓶ノ花崎^{ヘタケル}へ低^一一方ヲ可向行者ノ方
ニ、四瓶ノ花ヲハ可向中瓶ニ、灌頂時五瓶新造花ナル故ニ低
一方故五瓶花各五枝豎五峰^一云々<sup>已上、東南院
口決也</sup>

行法時分ノ事

東南院口決云、三時者寅・午・戌ノ時也、一七日初行戌
時ヨリ始之^一、第八日ノ午時ノ結願スル也、過テ取ハ^ハ弘壇机
等^一掃治メ、又次ノ加行可始也、此ノ加行ノ壇ノミ今度ノ
一七日ノ初行^旦トス故也、加行^旦取リ去テ不可始初行^一
也、又加行ト初行ト^旦ヲ可替^一云々、又努々於聚落在家^一
不可行之、冥罰蒙^一之也、

加行中懸本尊ヲ方事

東南院口決云、加行道場ハ息災ノ故、行者向北^一、本尊向
南^一、本尊中央ニ懸^一、大師御影本尊ノ左ノ方、尊師ハ
本尊右ノ方云々、但此ハ随方ノ一説、本軌ノ方分也、若古

所ノ靈堂觀心ノ行所ナラハ、可依時^一云々

加行中壇様ノ事

三宝院加行中壇様図有之、四面具五瓶鈴三杵等如常ノ、
一壇ノ構ノ本尊塗香器并正念珠苔^等等有之、但十八道正行ノ
時ハ略中瓶^一云々

初行ノ時仏供事

日中ハ大仏供二坏、小仏供二坏、汁二坏、此ハ小豆、田
菓子二坏、此ニハ常ノ餅也、本菓子四坏也、後夜ニハ粥二
坏、汁二坏也、初夜ニハ洗米二坏也、已上本尊ノ分也、
次日中毎大師ノ御前ニ仏供二坏、餅二坏也、次日中毎ニ
尊師ノ御前ニ仏供二坏、餅二坏云々、始行ノ初夜同^一、
委細ハ三宝院図有^一云々

十八道ノ加行ノ事

十八道加行ノ作法以如意輪^一ヲ為本尊^一、三時一百日等
云々、聖宝僧正ハ如意輪ノ反化ニテ御坐ニ、以如意輪^一ヲ為
本尊^一云々、凡醍醐流真言師皆如尔^一更不^レ以^二余尊^一ヲ、
定超法^{印殿}□等ノ十八道加行ノ次第有之、不可依用^一等云々、

兩界ノ礼懺ノ作者事

礼拝加行ヨリ乃至金剛界ノ正行マテハ不空三藏ノ御作金剛界礼懺可読云々、胎藏界ノ加行ヨリ乃至護摩マテハ仁海僧正ノ御作ノ胎藏界ノ礼懺ヲ可読云々

十八道ノ次第ノ出所ノ事

聖如意輪念誦次第ト云々、一義云、此法ヲハ依金剛智ノ記ノ如意輪儀軌ト恵果和尚ノ作十八道ノ儀軌トニ、元杲僧正作也云々、教舜口決云、御口伝云十八道ノ法ト者蘇悉地經ヨリ出云々、御口伝者憲深僧正口説也云々

十八道ノ立名事

憲深僧正口決云、儀軌ニ十八契印(マ)謂始自浄三業印明終リ至普供養印明一十七也、是ニ加本尊ノ印明一云十八ト也、但儀軌ニハ雖説十八一次第ヲ加二用カ別ノ印明一、故ニ數過二十八一、雖然今十八道ノ名字ハ付二儀軌説一名之一云々、浄三業三部被甲三古印驚覺地結四方結如来拳大虚空蔵送車召請馬頭空納火院摩尼供本尊ノ明

行者三業浄事キヨムル

次第ノ中ニ洗手者清身業意也、瀬(意)口者浄口業一意也、心ニ観ウン字一者浄意業也、行者三業清浄ナレハ同本尊三業一

也云々、又手ニ契結身業清浄ナリ、口誦真言ヲ口業清浄ナリ、意本尊ノ住レハ三摩地一意業清浄、此ノ時行者三密同シテ本尊三密ニ転ニシテ有漏ノ肉身ヲ成ニ無漏仏体一ト云々、已上ハ三寶院口説也

行者拜ニ見上ル本有ノ諸仏一ヲ事

次第ノ中ニ礼仏ノ海会云々、憲深僧正御口伝云、凡虚空ノ中ニハ法然トシテ一切諸仏遍滿シ給ヘリ、雖然我等為ニ无明ノ被間隔一不能見一コト今両眼ニ觀マタ一時恵眼既ニ開ル、故ニ无明ノ暗夜忽ニ晴テ奉見ニ遍空ノ諸仏一也、大師御尺云、マタノ恵眼ハ破ニ無明ノ昏夜一、日月ノ定光ハ現智有下上薩埵一矣、今道場内本有諸仏烈坐シ玉フト云々

五体投地ノ礼拝ノ事

次第ノ中ニ以頭面一礼仏海会一云々、加行中皆五体投地ノ礼也、頭兩手兩膝也、是以十八道儀軌ニ云、以五輪一着地一如教敬礼矣、故頭面礼ハ如法義也、五体中ニ拳頭(頭)四体也、但晴レノ行法ノ時ハ取ニ香呂一中礼等云々

六種ノ拳四種ノ拳事

大日経疏ノ節十三ニ积シテ大日経ノ密印品一云、作拳一法ニ

有リ其一ノ四種一、第一如クシテ常ノ拳作ハ法ノ大指堅ヨ之ヲ、次ニ以空指一在於テ掌中ニ而拳之ヲ名金剛一ト、刃二手一ヲ而合テ作テ拳ニ合三メヨ十指ヲ出現ニ於外此名指在外拳一ト、以十指一相刃テ皆合三シメ十指ノ頭在ニ於掌内ニ矣、妙印抄第十三云、第一ハ蓮花拳、第二ハ金剛拳、第三ハ外縛、第四内縛云々、此ニ加如来拳ト忿怒拳トヲ云六種一也云々

十二合掌ノ事

大日經疏ノ第十三尺ニ密印品一云、今此ノ中ニ説二十二合掌一第一ノ合掌ヲ当ニ中心ヲ堅メ相ヒ着テ十指ノ頭稍相ヒ離テ少許一開之ヲ、此ヲ名ニ寧尾拏合掌一ト、此ニハ名ニ堅実心合掌一ト、第二ハ次ニ以二十指ノ爪一相ヒ当テ齊等ニセヨ、以二指頭一相ヒ合テ掌ノ中心少シ不ニ相ヒ着一名ニ三補陀合掌一ト此ニハ名ニ虚心合掌一ト、第三ハ以二十指ヲ頭ハコレ相合ヨ、指亦齊等セヨ、然モ掌ノ内空ヲ合ニシテ稍穹降セ、名ニ屈滿羅合掌一ト此云如来開蓮一、第四以二地指ニ空指一相着ヨ、余指ハ稍合ニ開敷一名ニ僕拏合掌一ト、此ハ名ニ初割之蓮一ト、第五ニ以両掌一仰ケテ而相並一合ヨ、俱ニ向テ上ニ正ノ相ヒ並テ鋪之ヲ、名ニ嘔多惹合掌一ト、此云二頭露一ト、第

六ニ並ニ仰ヨ両掌一与ニ前相一似リ而全諸ノ指ヲ相ヒ就テ稍屈メ合之ヲ如ニ人ノ相ヒ掬ルカ水一ヲ状ノ勿レ合ニル大ニ屈一、此ヲ名ニ阿陀羅合掌一ト、此ハ云ニ持水一ト、第七ニ合ヨ十指ノ頭ヲ相ヒ又ハ皆以ニ右ノ手ノ指一加セヨ於左ノ手指ノ上ニ如ニ金剛合掌一ト、此ハ云婦命合掌一ト、梵云ニ鉢羅摩合掌一ト、第八以右手一加左ニ反ヨ掌一ヲ、以大指頭一相絞、亦以右手指一加於左手ノ指ノ上ニ一名ニ微鉢哩哆合掌一ト、此云ニ反刃合掌一ト、第九ニ以ニ右手一覆フセテ在ニ右手下ニ、稍似ニ坐禪ノ人ノ手ノ相加エル之形ニ、此名ニ毘鉢羅哩曳薩哆合掌一ト、此旨反背牙相着合掌一ト、十三仰ニ二手ノ掌一合ニ二手ノ中指頭指相接而仰ルナリ之ヲ、名ニ蹄曳合掌一ト、第十一ニ俱ニ露テ二掌一亦以ニ二手ノ中指一相接接ヨ、名ニ阿駄羅合掌一ト、此云覆手向下合掌一ト、第十二ニ双ニ覆両手一ヲ二大指

〔宋書〕諸天擁護善神誓願証ニ誠玉ヘ此事一所有東西南此羅四ノ維、上下七里之中ノ一切惡鬼神等ハ皆出玉ヘ我結界一ヲ所有一切善神等ハ有ニ利益者随意ニ而住玉ヘ、此軍荼利ノ結界也云々

道場觀事

大師御釈云、道場有二種一、一ニ者理、二ニ者事也、無量寿儀軌云、結ニ如来拳印一及真言加持威力故三千大千世界成ニ極樂淨土一ケル、左ニハ蓮花拳是理界、右金剛拳即智界、此理智不二ノ土ニ乘ニ如実道ニ来テ成ニ正覺一故、名ニ如来拳印一ト云々、亦真言ヲハ名ニ淨土變真言一ト、行者所居穢土ヲ加持スレハ忽ニ成ニ淨土一ト、行者ノ凡身ヲ加持レハ、速成仏等云々

如意輪殊勝ナル事

聖徳太子・聖武天皇・聖宝僧正等、如意輪再誕ナルカ故、以ニ聖如意輪聖字一ヲ給、如意輪儀軌云、為レ愍ニ念スルカ有情一ヲ作ニシテ無量ノ方便一ヲ化身為種々一ニ等矣、貧道ノ人殊コトニ更可信依之常如意輪一ト、金剛号ニハ名持宝金剛一ト、亦名救世菩薩一等云々、如意輪念誦法云、凡誦ニハ此咒ヲ不簡ニ在家出家飯食肉有ニ妻子、但誦ニスレハ此咒一ヲ必能成就、誦ニ此咒一ヲ人ハ不須作法一、不求ニ宿日一ヲ、不求ニ時斎一ヲ、不須洗浴一、不須別衣一ヲ、但誦皆悉成就矣、此法ハ宝思惟三藏訳也云々

小金剛輪印明事

瑜祇経云、若真言行者不トモ作ニ曼荼羅一、但シ持ニ此印明一、即同ス大ニ安中一立スルニ一切万荼羅上自身ノ一切支分悉成諸仏集凡此ナリ、不思議更ニ無過上味一矣、憲深口決云、輪壇四辺置大種護者ヲ云々、今印ノ二地ニ風ノ喻ニ彼金剛界ノ成身会ノ曼荼羅ヲノ輪壇ヲ持ヌレハ、地水火風四執金剛一花蔵界ノ地神也云々

宝車輅等事

憲深口決云、一座行法ノ々則ハ、外ニハ大国ノ擬ニ迎客作法、内ニハ頭修行転証ノ次第也云々、又云、上既ニ建ニ立シ道場一、備ニ供具一、儲ニ輪壇一、故ニ今ハ表ニ諸仏菩薩等奉請ノ儀式一也云々、請車輅時ハ乗レ車ニ来往道場上ノ虚空ニ云々、召請時從空中一降入道場、從車輅一ト下リ坐ニ蓮花台一故云々、四明時壇上令ニ本尊ニ真会一云々、五字文殊儀軌云、先於壇中画木等心上ニ想ニ一□字一為ナル金剛鉤一化為ニ真身菩薩一、然後重請入於像内ニ也矣、拍掌時新古ニ仏歡喜スト云々

闍伽水香水事

如意輪儀軌云、献闍伽香水ヲ故、行者ニ業清淨ニシテ洗浴

ス、煩惱垢一ヲ矣、憲深口決云、大国ノ習ヒ迎客着座之後必令^{シテ}洗浴双足一ヲ也、外儀ハ擬シメ彼^ニ今^ハ奉^レ洗^ニ浴所請ノ本尊兩足一ヲ也、内ニ洗^ニ浴煩惱塵垢一云々

蓮花座事

仏菩薩トハ同八葉印也、明王ニハ六葉印、天等ニハ四葉印也、此ハ大都儀也、憲深口伝云、蓮花部ハ八葉印ナリ、至極開敷ノ形ナリ、合印ハ指ノ頭^{ハシラ}少屈スル也、彼レハ蓮花開敷ノ形カ至極開敷蓮花印也、此ハ諸尊花座カ故異^レ彼ニハ也云々、一字頂輪王經云、蓮花座ノ印ハ微^ス曲^{カ、メテ}如^ニ初月形一似開敷蓮花矣

鈴ノ音功德ノ事

鈴ノ音ハ說法義也、当^テ耳^ト心・額^ト三処^ニ表^ニ理智事ノ三点^一也、三点者^ニ部也、秘藏記云、蓮花部ハ擬法身^ニ、金剛部ハ擬[〔]△[〕]般若[〔]波羅[〕]密^一ヲ頭^ニハ名摧一切魔菩薩^ト一矣、密ニハ鈴菩薩也云々

オン字供養ノ明事

憲深口伝云、オン字ハ供養真言也云々、秘藏記云、奄字供養明一ニハ供自仏、一ニハ他仏一矣、如意秘釈云、供養仏

聖^一ヲ義三部中ニハ相充^{アツ}蓮矣、ウン字ハ当^ニ三身^一ニ云々、此ハ不生不滅ノ字也云々

摩尼供養真言事

無量壽儀軌云、此ノ廣大不空摩尼供養陀羅尼^ハ纔^ハ誦^ハ三遍^一、則成^リ於^テ無辺微塵利土中^一而雨^ニフラス、廣大供養^ヲ也、不空縹索經云、此摩尼供養ノ真言若常^ニ誦持供養^{スト}得^ニ不可説ノ一切供養海雲^一廣大供養^ヲ矣

三力偈ノ事

大日經疏十一云、以ノ我カ功德力^一故、以ノ如来加持^一故、以ノ法界平等力^一故、以^ニ此三縁^一故[〔]重[〕]複[〔]写[〕]カ^ル故、則能成^ニ就不思議業^一ヲ矣、第一ハ自縁ナリ、即自修行ノ縁也、第二ハ他縁也、即如来加持守護力也、三ハ自心所具ノ本覚力故内因外縁具足ト云々、是以大師御釈云、本覚内ニ董^シ仏光外ニ射矣、故法界力者自心所具仏性ナリ云々

入我[〔]我[〕]入ノ事

秘藏記云、引^ニ入^ニエルヲ諸仏ヲ於吾カ身中^一、是ヲ曰^ニ入我^一ト、引^ニ入^ルヲ吾カ身ヲ於諸仏ノ身中^一、是ヲ曰^ニ我

入^一、々入^我ノ故諸仏無數劫ノ中ノ所^二修集^一功德ヲ具^二足我身^一、又一切衆生身中本来自性ノ理与^二吾及諸仏自性理^一平等ニシテ无差別^一矣

大中小三咒ノ事

憲深口決云、略^{シテ}大咒^一成^{スル}ヲ中咒^一云心咒^一、略^{シテ}中咒^一成^{スル}ヲ小咒^一云中心咒也云々、如意輪軌云、三種真言俱^ニ誦^ニ七反^一散^ニ頂上^ニ云々、雖然大咒^一反、中咒各三反ト云々、第三ノ咒殊^ニ肝心^{ナリト}云々

百人煩惱ヲ遠離スル事

次第^ニ遠離塵垢云々、念誦ノ百人ハ表衆生百人煩惱^一、故彼ノ念珠ヲ三度移^ツスハ、左右手^一遠^ニ離^{スル}百人煩惱^一義也云々、百人煩惱者花嚴經云百人煩惱矣、八十八使ノ見惑ニ加^ニ二十ノ修惑^一、故九十八使也、十ノ修惑者欲界貪・嗔・癡・慢、色・無色各貪・嗔・癡・慢也、此ノ九十八使ニ加^ニ無慚ト无愧ト嫉ト慳ト忿ト覆ト掉ト挙ト昏沈ト睡眠ト惡作^ト云々

正念誦ノ遍数事

次第^ニ若一百八遍業云々、無量寿儀軌云、一座念誦或百

或千若不滿^ニ二百八反^一則不充^一矣、祈願ノ遍数^一矣、又云、大咒纔^ニ誦^レハ一反^一則滅身中十惡四重五无間罪^一矣、底理三昧經云、最少ハ百八遍已下不成^一矣

仏眼真言事

憲深口伝云、散念誦ノ初ニ必ス用^{コト}ハ仏眼ノ咒^一所作ノ事業皆同^ニ一切仏^一所出言語使^レ成^ス真言^ト矣、若常持^ニ此明^一金剛薩埵及諸菩薩常^ニ随^テ衛護^{シテ}得^ニ大神通^一所作ノ事業皆悉ク成就スト矣、此ノ尊ハ居^ニ胎藏ノ遍智院^一三部五部ノ仏母ノ尊也云々

一字金輪真言事

一切散念通誦初^ニ仏眼真言^一三部五部ノ仏母ノ故、大金剛輪真言ハ補欠分ノ故誦^一、一字金剛輪ノ真言悉地成就ノ咒ナル故^ニ誦^之云々、但一字ノ咒ノ功力勝余咒^一故ニ余咒威光皆悉隠ル、故、一字咒ノ後ニ密カニ誦^ニ仏眼誦^一七反之ヲ云々、一字頂輪王經云、若有人誦^ニ持此轉輪王ノ真言^一処ニハ五百由旬ノ内ニ一切世間出世ノ真言不流通不成就、若纔^ニ憶念スレハ此ノ真言^一皆悉成就ス、唯シ除^ク仏眼真言^一七遍誦之ヲ其身寂靜ナリ、若シ不然者其威徳无能堪忍

コト、其真者^(言説)必修スルニ初後ニ誦ニ此仏眼真言一、十地ノ菩薩
尚不能^三堪忍^二コト此輪王ノ威徳一、何咒余天等小類ノ有情
ヲヤ、^鳩鳥入^鳩ニ海鱗類悉ク死スル時、犀ノ角ヲ入ルレハ必蘇
生スル、故儀軌ノ中ニ仏眼ノ咒ヲ犀ノ角ト譬之ヲ、故ニ深秘
口伝一字ノ後ニ密ニ誦ニ仏眼^ク七反^一ヲ云々

解界因由事

憲深口伝云、所請ノ本尊ヲ為奉送ニ本土一解ニ結界一也、
諸仏^(菩薩)ホサツハ不背本誓一不レハ解ニ結界一不能還^玉一、但地
結ノ印ヲ不解^{コト}一、本尊奉ニ送り无^二其障^一一故也、自然地下
ノ天等請時ハ地結印ヲ不^レ結故又無^二相違^一ニ云々

撥遣印明事

金剛智ノ儀軌云、撥遣密言ニ羽堅固縛シテ忍願蓮葉形ニセ
ヨ、密言曰唵鉢娜摩薩^(縛脱カ)但紇哩穆矣、但此ノ尊ハ蓮花ノ尊故
結ニ蓮葉印一誦^ト鉢娜摩咒云々、而諸尊惣撥遣ニ以^二右拳
一彈指シテ誦^ニ唵縛日羅目者穆明^一ヲ云々、仏菩薩ニハ彈指
一度明王天等^三度^二云々

印仏讚經等事

先解界ノ後ノ三部等ハ、所請ノ本尊ヲハ既ニ奉送ニ本土一、

行者未断或之間^(惑)ハ、離^{スレ}ハ本尊ノ加護^一魔界ノ障碍^(マ)有^二其
恐^一、故ニ用^二護身法等ヲ云々、次出道場事、秘藏記云、
行者將出^二道場^一之時可思惟依^二悲願^一利他ノ故又出テ後
常ニ可思^一五身^五ハ本尊ト足^ニ常^ニ踏^フ蓮華^一ヲ、口ヨリ常ニ出音
ヲ説法シテ教^ニ誨^ス前人^一ヲ、印仏讚經等事、如意輪儀軌云、
撥^ニ遣聖者^一ヲ已テ自住本尊觀或於閑静処ニ転^ニ誦^ス摩訶衍^一ヲ
楞伽与花嚴・般若及理趣如是等ノ經教ヲ思惟而修行シ誦^ニ
誦經典^一、已テ自恣行住坐臥セヨト矣、香煙印スルヲ仏形^一ヲ
云印^ト仏^一等云々

已上六十箇条十八道次第分如形、委細ハ中性院ノ口決
等ニ見タリ云々

金剛界次第ノ出所事

金剛界念誦次第ト云々、金剛界儀軌ニ有^二二ツ^一、一ニハ金剛
智ノ釈スル三摩地ノ儀軌ハ金剛部ヲ為本^ト、二ニハ不空ノ釈ノ
蓮花部儀軌蓮花部ヲ為本^ト、而依^{ヨル}蓮花部心ノ儀軌^ニ元果僧
正作^ニ金剛次第云々、雖^ニ然^一意^ト通^ニ余ノ儀軌及本經等

モ一
〔^(朱書)〇〕並而相接ヨ、十指ノ頭ヲ向^ヨ外^一亦同名也、亦云覆手

合掌^ト也矣、妙印抄第十三云、第一八十指堅ク相着ク、而ニ端シ少シ

許リ、第二^卷ハ常ノ内ヲ少シ^{ウツケテ}空^{ウツケテ}十指頭ヲ合、第三八十指ノ頭齊ク合セ掌内先広ク屈メ空スル也、穹隆^{キウ}ト者掌内空ケ広クルヲ云也、第四八十指水火風ノ三少シ開也、第五ハ手レニ仰テ相並向上^{ニアラハスルニ}一^ニ頭^ニ掌内^一ヲ也、第六ハ合テ如^ニ承^{レタル}水^一ヲ形ニ鉢印^一也、第七ハ金剛也、第八ハ如轉法輪印ノ不^ル動反持^上也、第九ハ如金剛持遍礼印^一而トモ不同^二鉤^一地^二空也、第十両掌仰テ二中指相柱^ヨ、其形九峯印也、第十一ハ二掌並覆之^二中指端相柱^一也、第十二ハ如諸龍印^一矣

結跏趺坐^等第^事

憲深口伝云、半跏坐者上テ右ノ足^一置^ニ左膝ノ上^一也、結跏趺坐者先左ノ足ヲ置^ニ右膝上^一、次ニ右ノ足ヲ右前ヨリ越テ置左膝上^ニ也、但何坐モ^マ以^レ內衣^一隔^テ其上懸衣云々、但頭教等ニ有賢座及随意座等云々

五分法身事

次第二五分法身等云々、戒者仏果无漏ノ淨戒也、定者仏果无漏ノ正定也、恵ハ仏果无漏ノ得^レ後智也、解脱者仏果无

漏ノ勝解心所也、解脱知見者仏果无漏ノ正体智也、意ハ今修生ノ行者正体本有ノ仏果清淨無漏ノ五分法身ノ功德ヲ磨螢スルニ、父母所生ノ行者ノ肉身忽ニ成無漏法身ノ体ト云々

三密觀事

次第中ニ三密觀云々、憲深口伝云、今三密觀ト者三業皆ナ觀^ニ金剛不壞ノ体ト故、ウン字ハ金剛部ノ種字ナレハ通シテ用此ノ一字ヲモ、秘藏記云、以斯吽字ヲ安置シテ身口意^ニ觀^ニテ五古金剛^一ト加持スルニ、則能除滅スルコト無始以来ノ三業ノ罪障^一如^シ金剛摧^ニ破^ルカ一切物^一ヲ矣、瑜伽經云、唯一金剛能除煩惱矣、次第ニハウン字三返トアリ、此レハ身口意各一遍也、理実ニハウン字十返ナルヘシ、断除十悪業^一故十業ヲ故十業者身ニ三アリ、殺生・偷盜・邪婬也、口ニ四アリ、妄語・綺語・惡口・兩舌也、心ニ三貪・嗔・愚痴也、故当身^ニウン字三返、当口^ニウン字四返、当心^ニウン字三返云々、三寶院口決云、掌舌ト心ト者表^ニ仏金蓮^一ノ三部^一意也云々

淨三業真言事

高尾口決云、此真言^ニ有^ニ二十六字^一、是即十六ノ諸尊也

杖長短ハ可レ依^レ壇ノ大小^一、重々ノ散杖切様有之云々

灑水入香^一由^レ事

大師ノ御尺云、水ニ有^二清浄ノ義^一無^二遍至ノ義^一、香ニ有^レテ^二遍至ノ義^一無^二清浄ノ義^一、^二合故ニ具^一遍浄ニ義^一矣、大疏云、以^二性浄之戒香^一和^二合シテ性浄之悲水^一遍灑^テ法界衆生ノ性浄之心地^一ニ為^レ令^下洗^上ニ一切戲論^一皆浄除^セ上故也、憲深口伝云、香水ハ雖^レ似^リ最小ナルニ既具^二足清浄遍至^一徳^一洗浴ニ法界ノ不浄^一内ニ断^二除煩惱ノ垢穢^一也、是則大日如来ノ智水ナリ云々

百六十心戲論ノ事

次第中ニ洗^二浄百六十心戲論垢^一云々、貪嗔癡慢疑ノ五鈍煩惱ヲ初ニ開ケ成^一十^ト矣、次又ニツ、ニ成^一二十^ト、次又ニツ、ニ開ケハ成^一四十^ト、次又ニツ、ニ開ケハ成^一八十^ト、次又ニツ、ニ開ケハ成^一二百六十ノ煩惱^一、如是ニツ、ニ開ケハ八万四千ノ塵勞煩惱ト成ルト云々、此一切衆生分也、如来ノ八万四千ノ教法ノ起ハ為此ヲ対治ノ大日疏ニ明之ナリト云々

独三五鉢等ノ事

次第ニ小三古ノ印云々、大師雜問答云、三古印ハ即三仏

三昧^耶ヤ身、独古は一仏三昧^耶ヤ身也矣、五古ハ五仏三昧^耶ヤ身也、以三古印加持之^一、或以小五古印^一加持之^一、依処依事^一云々、逆順加持ノ事、先逆ハ此レハ魔障等ヲ碎除スル義也、次順此レハ悉地成ノ結界也ト云々、天ノ順ハ地ノ逆故、指ノ上下順へ之逆順加持ニ有^レトモ^一多義^一三宝院ノ様如^レ明^レ上^一云々

浄地觀解事

次第ニ器界清浄云々、憲深口伝云、前ラン字觀ハ総シテ浄^内煩惱外器界^一今浄地ハ別シテ浄器界^一意也、行者居士^一密嚴浄土云々

金剛起印明ノ事

次第ニ驚覚一切如来ト云々、憲深口伝云、上ノ觀仏ノ時ニモ既^ニ雖^レ奉^レルト見^ニ遍空ノ諸仏^一彼ノ諸仏未^レ出^ニ入定^一、故今結^ニ金剛起ノ印^一、加^ニ持スル入定諸仏^一時被^レ驚覚^一セ出定シテ護^ニ念行者及法界ノ衆生^一、千手ノ儀軌ニハ云、驚覚一切如来印^一撰真実ニハ經ニハ覚起印也云々、如印文^一二風ノ端シ許^リニ三度^ア挙之^一云々

表白時取^二香呂^一事

次第啓白事由一云々、五字文殊軌云、一心ニ帰命シテ手ニ執ニ香炉一、若捧ニ妙花一、運心供養釈迦仏昇ニ初利天一ニ為母説法シ終フ時ハ座ニ石上ニ捧青蓮花一云々、准之ヲ香呂ヲ可書ニ青色一ニ云々、高尾曼荼羅ニハ捧ニ花枝一云々

三代聖靈ノ事

表白ニ奉始三代聖靈云々、醍醐流ノ靈分ニ必可レ有ニ此言一、其故ハ醍醐建立ハ偏延喜・朱雀・村上ノ三帝ノ御建立ノ故ニ祈彼ノ三帝ノ菩提一云々、延喜皇帝ヲ亦ハ号ニ醍醐天皇ト、仁王六十代ノ帝也、朱雀院ハ醍醐天皇ノ第十一ノ王子、仁王六十一代メノ帝、村上天皇ハ醍醐天皇ノ第四皇^(十四)子、人王六十二代メノ帝也云々

普賢行願

次第ニ五悔亦名ニ普賢行願云々、普賢ト者浄菩提心ノ体也、今ノ五悔ハ行者住ニ^{スル}浄菩提心ノ門ニ故云普賢行願一也、大日経疏ニハ普賢菩薩者ト普ハ是遍一切処ノ義ナリ、賢ハ是レ最妙善義ナリ、謂菩提心所ノ起一行願ト及身口意ト悉皆平等ニシテ遍ニ一切処ニ純一妙善ニシテ偏具ニ衆徳ヲ故以爲名矣、普賢ノ十大願一ヲ為五大願ト開合異云々

勸請ト発願トノ事

次第ニ発願ト云々、内行ノ時ハ発願ナリ、行法ノ時ハ勸請也云々、又三宝院口伝云、一七月初行ノ時ハ初夜勸請、後夜、日中ハ発願云々、大都以前説為本云々

大金剛輪真言事^(宋書)「△」一〇金剛座^(宋書)

次第ニ成堅固金剛座ト云々、三世諸仏皆座ニシテ中笠摩竭多国金剛座ニ成ニ等正覚一ヲ、今ノ行者モ彼以ニ堅固菩提心一ヲ為金剛座ト一座ノ行法ノ間ニ即身成仏スト云々、金剛不壞座ト者即金剛座ト也云々

横堅結界事

次第ニ随心大小即成ニ金剛堅之城ト云々、秘藏記云、結界有二種一、一ニハ次第ニハ横也矣、次第ハ上下横四方四角也、故集経云、下レ上ハ八方トヲ結界矣、長宴僧都口決云、自行時一房一間乃至最極七重云々^(墨)「〇」、大師高野結界文云、仰願諸仏歡喜シ^(宋書)「△」不空ト業金剛遍行ト我礼ス金剛房ト^ト、金剛護ト大勇金剛甲ト大堅難敵妙ト精進ト我礼ス金剛勒ト^ト、金剛尽ト方便ト金剛牙ト大怖摧魔金剛峻

ト我礼ス金剛分^一トヲ、威嚴ト金剛能縛解ト金剛拳勝誓^一ト我礼ス金剛拳^一トヲ、此百八名矣、諸尊秘名等入事相^一ニ知之云々、除百人煩惱^一ヲ儀也云々

送車輅請車輅ノ事

頼瑜ノ作発恵抄中ノ卷ニ云、御口決云、為^ニ冥会セシメン道場所觀^一ニ奉請法界宮諸尊^一ヲ也、依此請^一ニ来テ座道場空中也、如十八道送車輅請^一而印明ノ云々、開門ノ前^ニ可有送請^一ニ印明云々、寛琳次第^ニハ送車ハ五輪、請車ハ智拳印ノ大日乘来給フ、画^一有之云々、尔ラハ延命院ノ次第^ニハ略之歟、准通義^一ニ可修之云々

不動ノ結界ノ事

次第^ニ亦方用降三世^一ニ云々、石山淳祐次第^ニ云、次^ニ降三世印真言又様^一ニ用不動印真言^一ヲ矣、師匠ハ降三世ヲ為本^一ト結界弟子ハ不動ヲ為正結界^一ト扱^一義歟云々

成身会ノ事

金剛智三藏ノ凶給現^一凶^(曼荼羅)万タラノ九会ノ中^(中)ニ々央^(曼荼羅)万タラニ云成身会也、而^ニ彼ノ凶会ハ千六十尊也、三十七尊ト外部ノ菩薩天下^一地水火風四執金剛ト賢劫ノ千仏ト也、延命院ハ付^ニ

广大儀軌品^一ニ記成身会^一ヲ給、故成身会ハ七十三尊也、三十七尊ト賢劫ノ十六尊ト外部菩薩天下ト也、依之上ノ道場觀ノ時賢劫ノ十六尊等也

羯磨会ノ事

羯磨会ハ七十三尊也、三十尊ト賢劫ノ十六尊ト外部ノ菩薩天下ト也、金剛界ハ^(曼荼羅)両万茶ラナルカ故羯磨会ハ成身会ノ東方也、三十七尊者大日ト同キ四親近ノ金宝法業ノ四波羅密トノ五尊也、阿闍ト同キ四親近ノ薩玉愛喜トノ五尊宝生ト、同キ四親近ノ宝光幢咲トノ五尊ト、弥陀ト同コト四親近ノ法利因語ト五尊不空ト、同四親近業護牙拳トノ五尊ト、内ノ四供嬉鬘歌舞ノ四尊ト、外ノ四供ノ香花灯塗ノ四尊ト、四撰ノ鈎索鎖鈴ノ四尊ト、已上三十七尊已賢劫ノ十六尊者、東方ハ慈氏ト不空見ト除蓋障ト憂闍ト也、南方ハ香象ト大精進ト虚空藏ト智幢ト也、西方ハ无量光ト賢護納明光ト也、北方ハ金剛藏ト文殊ト智積ト普賢也、菩薩天東方ハ那羅延天下^(總)拘摩羅天・金剛摧天ト梵天ト帝釈天ト也、南方ハ日天下^(總)月天ト金剛食天ト彗星天・蚩或天ト、西方ハ羅刹天・風天下^(總)金剛衣天ト火天ト毘沙門天ト也、北方ハ金剛面天ト焰

魔天ト調伏天ト歡喜天ト水天ト也云々、已上七十三尊ノ種
三尊能々可見智之云々

三昧耶会ノ事

現凶茶羅^(曼脱)三昧耶会ハ東南ノ角也、七十三尊ノ名字如羯磨
会^一、而七十三尊ノ三昧耶形説会ナルカ故云三昧耶会^一、
故尊皆住三昧形云々、但今次第三明三十七尊ノ三昧形^二
略^レ余ヲ歟、五仏ト薩・王・愛・喜・宝・光・幢・咲・法・
利・因・語・業・護・牙・拳此十六ヲ云恵門ノ十六大菩
薩^ト也、金・宝・法・業・嬉・鬘・歌・舞・香・花・灯・
塗・鈴^二・鉤・索・鑱^一ノ十六ヲ云定門十六大菩薩^ト也、三昧
耶此ニハ云除障驚覺平等本誓^ト也

大供養会ノ事

現凶万茶羅^(曼)ニハ大供養会南方也、現凶万タラ^(曼茶羅)ハ七十三尊
也、五仏ノ外ノ諸尊ハ大都依供養儀式^ニ捧^ニ蓮花^一ヲ也、
次第ニハ悉不出之^一遍照尊者大日也、東方・南方・西方・
北方ハ四仏也、東前乃至北後者恵門ノ十六菩薩也、散花者
花菩薩也、焼香灯香菩薩也、灯明者灯菩薩也、塗香者塗
菩薩也、宝類者通八供養、翫具者嬉菩薩也、宝樹者鬘菩

薩也、承事者舞菩薩也、觀法者歌菩薩也、已上五仏ト
十六菩薩ト八供養ト二十九尊云々、余ヲハ略之^一ヲ歟

四印会ノ事

現凶万茶羅^(曼)ニハ四印会ハ西南角也、現凶万茶羅^(曼茶羅)ニハ十三会
也、大日金剛薩埵^ト虚空蔵^ト觀音^ト毘首^ト羯磨菩薩^ト金宝
法業嬉鬘歌舞也、但宝琳^(曼)ノ次第ニハ、四印会ニハ出金剛薩
埵^ト金剛宝^ト金剛法^ト金剛業^トノ四菩薩^一ヲ、三万院口伝云、
此ハ大三法羯^(唐脱)ノ四種万茶羅^(曼茶羅)ヲ云四印会^ト云々

一印会ノ事

現凶万タラ^(曼茶羅)ニハ一印会ハ西方也、准一尊即智拳印ノ大日バ
ザラダトバンノ明也、三宝院口伝云、余流ニハ四印会ノ次
ニ一印有之云々、此ノ流ニハ無之^一、寛琳ノ次第ニモ四印会
ノ次ニ出一印大日真言ニ云、金剛王院ノ次^(第脱)ニ云、次ニ加一
印会ノ中ノ大日真言云々、金剛王院ノ次第ニ云、次ニ加一
印会^一云々、大師五重結護之如是无量ノ色相威儀ハ唯是レ
不過一法ノ内^一ヲ、是故ニ有一印会雖一独法身^一ナリ、而塵沙
万徳ノ法門ノ眷属無不來テ開繞^一セ也、為表最上無上之法^一
示^二現独^一ノ会^一也矣、覺鑿ノ釈云、不^レ改^二四万別相^一

合シテ入一印大日ニ矣、理趣会ハ成身会ノ大楽不空明ヨリ
開之、降三世会ハ成身会ハ成身会、降三世三昧会ハ成身
会極喜三昧ヤ（釋）ノ明開之云々

摩尼供養ノ事

普供養ノ印言ヲ云、摩尼供養印言有二義一、一ニ云、依
此ノ印言一雨二フラス無量ノ供具一似三摩尼ノ雨二フラス三天量珍宝
一一故ニ云摩尼供養云々、一ニ云、依二此印言一雨二無量ノ
宝一中ニ殊更ニ大切ノ摩尼有之故云摩尼供養云々、已上三
宝院口伝也云々

四智讚ノ事

唵縛曰羅薩埵縛僧藥羅賀ハ、阿闍仏大円鏡智也、縛曰
羅々怛囊摩努多覽ハ宝生仏平等性智也、縛曰羅タラマ識
也奈ハ弥陀仏妙觀察智也、縛曰羅羯磨迦路波十縛ハ不空
成就仏成所作智也、此ハ讚二詠スル四智ノ徳一云々

仏眼印ノ事

憲深口伝云、上四眼ハ二火二空各ノ間タニ手ノ各風火ノ間
也、下眼ハ二間也云々、石山次云、虚心合掌シテ以風各
火上一不微着以二空捻小中節文一小指稍開也云々、檜尾

口決云、五眼者左右頭中指之間其二ナリ、二大指ノ末ト与
二中指下之間其一ナリ、二小指之間其一云々、広沢ノ円
城寺ノ次第云、両手合掌シテ二頭指ヲ各着中背二一

入我入ノ事（我脱）

入我（我）々入ノ様ハ十八道ノ下ニ明之一畢シテ、今ノ次第第一身四
面者三寶院口伝云、行者着二五仏宝冠一故惣体ハ金界大日
ナリ、余ノ四仏ノ像形有二宝冠ノ四方一ニ云四面ト云々、如常（常）
釈ノ喜見城ハ二百一雜宝一莊嚴故宝影互ニ移影一云々

正念誦ノ事

旋転真言七返云々、下三遍旋転ノ時誦之故ニ此ニハ略之
云々、五寸者三寶院ノ口伝ニハ三寸許ナルヘシ云々、想陀羅
尼字者オンバザラダトバンノ明也、但字合白色者此ノオ
ンバザラダトバンノ字ヲ五色ノ中ニハ白色ニ可觀之

字輪觀ノ事

入法界体性三昧觀等者入六大体性ノ觀ニ義也、其故ハ我心
満月輪者識大也、上有アバラカキヤ五字者前五大觀也
云々、順逆觀者無点ノ五字ハ本有本覚也、有点ノ五字ハ修
生始覚也、此本始不二ヲ云順逆亦云逆順一云々

宝印等ノ事

次第ニ禅智亦復然者ニ宝院口伝云、此ノ宝印ハ三昧ヤ会ノ
宝印故、二大指ヲハ唯並立許也云々、於灌頂処者額也、
常額ヲ名灌所故云々、已上金剛界次第分如形三十五箇条
記之一畢

胎藏界次第出所事

依大日経ノ第七卷供養法及青龍寺ノ儀軌等ハ、延命院元
杲僧正記胎藏界次第ヲ給云々、凡胎藏儀軌有多数広大儀
軌、撰大儀軌等云々

助修人ノ事

次第ニ若有助修之人一者御修法及灌頂ノ時ノ伴僧也云々、
入仏三昧ヤハ逆悟不ニノ礼也、法界生ハ迷悟各別礼也
云々、転法輪ノ礼略之一灌頂等無之故也

九方便ノ事

宝琳次第ニ云、作礼方便ハ且ハラ密菩薩、出方便ハ戒
ハラ密菩薩、帰依方便ハ忍辱ハラ密菩薩、施身方便ハ精
進ハラ密菩薩、発菩提心方便ハラ密菩薩、随喜方便ハ般
若ハラ密菩薩、勸請方便ハリハラ密菩薩、奉請法身方

便ハ願ハラ密菩薩、廻向方便ハカ波ラ密菩薩、智ハラ密
ハ通ニ上ノ随喜ノ已下四ハラ密ニ云々、或通ニ撰第六般若
ニ此十ハラ密菩薩ハ在虚空蔵院ニ云々

□ノ三部観ノ事

寛琳次第ニ云、入仏三昧ハ仏部大日尊・遍照金剛、法界
生ハ蓮花部正観音・正法金剛、転法輪ハ金剛部金剛薩埵・
真言金剛云々

行者為地神一事□

金剛頂経事

金剛頂経十万頌三百卷ナリ、而金剛智南天竺ヨリ大唐渡時
遇ニエリ悪風ニ、二百九十七卷ハ入レ海、大教王経三卷ノミ
大唐エ渡ス、此ノ三卷ハ十八会ノ肝心ト云々、此レハ大唐小
国ルカ故ニ龍神ノ意ハ彼国ニ不相応故ニ龍宮ノ経蔵ニ納之
云々

無能勝明王事

玄秘抄ニハ降三世ヲ云ニ无能勝ト云々、大日経疏ニハ天能
勝明王ハ釈迦化身也、又ハ釈迦眷属也云々、或薬師断或
体也云々、又八大明王中ニ有ニ无能勝明王一諸義中ニ降三

世シテ云ニ无能勝一義歟、其故ハ降三世金剛界ノ教令輪身ナル故当段ニ挙之ヲ為言

无上法医王ノ事

次第ニハ稽首无上法医王等云々、此頌ハ蓮花部心ノ儀軌ニ有之一云々、寛琳次第ニハ智金剛薩埵云々、三寶院ノ口伝ニハ金界大日ト云々

加持供物印明事

加持供物ノ印明ニ有多説一中ニ正クハ小五古印ニハ用ニ降三世真言一也、是以蓮花部心儀軌云加持供物小五古印降三世真言云々、故ニ金界ノ時ハ本尊ハ降三世也、毘那夜者ノ三寶院口伝ニハ第六天魔王ト云々

蓮花部心已下ノ三印ノ事

蓮花部印ニ智度ト者左空禅度、空也、金剛部心ノ印ニ豎智度者左空也、後被甲印ニ翼者左手也、成賢ノ略次第ニ云蓮花部立大指一金剛部ハ左大指ヲ立後被甲ハ以右手一加持五処一右手当腰ニ云々、手形チ重々ノ有習雖然上ノ義正説也云々

四礼四仏ノ事

上本尊礼ハ中台大日如来ナリ、次四礼ハ四仏ナリ、上下合シテ五仏礼ト云々、第一ニ東方阿閼礼也、所有微塵数者身中ノ心王心数也、尽礼事ヲ諸仏一者向東方一礼レハ阿閼仏ヲ成ニ一切海会ノ諸仏奉礼一徳均故ニ余ノ三方ノ礼モ准ヨ之、第二ニ南方宝生礼身為宝形者如意宝珠也、成ニ金剛藏一者虚空藏菩薩也、第三ニ西方アミタ礼金剛法者觀音也、第四ニ北方不空礼業金剛者十字ノ一羯磨也云々

四无量觀事

慈无量心ハ東方普賢菩薩ナリ、悲无量心ハ南方虚空藏菩薩ナリ、喜无量心ハ西方觀自在菩薩也、捨无量心ハ北方虚空庫菩薩ナリ云々、大師御积ニ云、興樂ヲ為慈上拔苦ヲ為悲不害ヲ為喜ト捨ハ亘三車一云々、花嚴經ニハ四无量心ヲ云四等一云々

勝願段ノ四種藏性ノ事

四種藏性者一切衆生身中ニ法尔トシテ具アタライサオン四種字云々、四菩薩普賢・虚空藏・觀音・虚空庫也、普賢ハアヲ為一種字ト五古ノ為三昧耶形ト、虚空藏ハタラク字一為種子宝珠ヲ為三昧耶形ト、觀音・虚空庫菩薩ハオン字ヲ

為種子ト開蓮花ヲ為三昧耶形ト云々

開心入智合智事

開心ノ時ハ行者ノ八藏ノ中煩惱等ノ種子ヲ皆除滅シ能藏ノ識ヲモ淨也云々、入智ノ時ハ仏果无漏ノ智ヲ行者ノ第八識召入ノ令レ置一義也云々、合智ノ時ハ召入ノ智為一煩惱ノ外風一ノ無傾動様ニ閉ニ第八識門戸一ヲ義也云々、已上三宝院ノ口伝也

極喜三昧耶事

射厭離心云々、二乗ハ无化他ノ義故ニ厭生死一ヲ入涅槃ニ心ヲ真言行者捨離セヨト、為是々(是)以金界ノ廣大儀軌品云々、不厭離生死安ニ住菩提心一ニ以ニ大悲箭一射ニ衆生意ヲ矣、三昧耶四義者三昧此云平等ト本誓ト除障ト驚覺ト云々

降三世明王ノ事

八臂者如広大儀軌、四面者東ハ青色、面(南殿)ハ黄色、西ハ赤色、北ハ黒色等云々、大天及者左足ニハ踏(フム)ニ大自在天一、此ニハ障レ理ヲ煩惱一切障碍(マ)ハ皆納此男天、女天ニ云々

大欲乃至業障除事

大欲已下五明ハ金剛薩埵ノ三摩地也、如次因行証入方也、

大欲者無上菩提、大源智者大悲心者、諸鬼形者自他ノ羅業色々ノ鬼形ニテ現也、如次一慾触愛慢金剛薩埵ノ五尊也、出ニ広大儀軌一ニ

五相成身ノ事

次第ニ如幻等者幻(幻)ハ々術師(マシナテ)咒土木一ヲ見鬼金等ニ云幻執火風云々、様見タルヲ云健圍婆城一取情(ヲキヲ)急ニ振フレハ以火輪一云旋火輪一ト、呼ヨヘハ空谷(谷ヒキテ)ヲ々響(ヒキテ)似ルヲ人答一ヘルニ空谷響ト云云々、第一ニ通達菩提心者本有菩提心ノ種子ウシ字也、定メナカラ誦ニ普礼真言一ヲ五体投地一礼スト可思一、第二ニ修菩提心者修生ノ菩提心ノタラク字已上ノ二菩提心種子位也、第三ニ成金剛心、第四ニ証金剛心、此ノ二種(種)ハ々字転シテ成三昧(耶)ヤ形一ト即蓮花也、広金剛斂金剛二種(心脱カ)ハ成金剛心内ノ觀心也、第五ノ仏身円満ハ三昧(耶)ヤ形転シテ成大日一ト云々

四仏加持等ノ事

東方不動仏者阿闍此云无動一、亦云不動一、非ニ常ノ不動明王一云々、五仏灌頂者毘洗遮此云灌頂一各以三昧(耶)ヤ者三宝院口伝云、中ハ塔、東ハ五古、南ハ宝珠、西ハ蓮花、此(北)

ハ羯磨云々、皆三摩耶契者上ノ四仏加持ノ印也云々、三寶院口伝云、鬘者以美花一貫一蔽也、申二頭指一三脇方へ引テ申様ニシテ打懸也、此レ結フ義也云々

現智見智二身事

現智身者智金剛薩埵也、大印如儀則者金剛薩埵ノ威儀也、左手執レ鈴右手持レ杵抽擲云々、遍入金剛己者金剛薩埵ヲ入二月輪一義也、伝云者石山源祐ノ口伝也、見智身理金剛此ノ二身印言等出ニ教王経一云々

成仏亦名陳三昧ノ事

寛琳ノ次第ニハ成仏者大日云々、広大儀軌云、陳三昧ヤ者(耶)金剛縛忍願蓮葉形云々、背後遍入於月輪者三寶院口伝云、自身薩埵背後ナル月輪ニ遍入ナル義也、檜尾口決云、本尊在月輪一我モ有月輪ニ同是如来也云々

道場觀事

世界ノ下方等者(誤写カ)下方等者作報ノ五輪也、八功德水者俱舍論云、一ニ耳、二ニ冷、三ニ柔、四ニ輕、五ニ清淨ナリ、六ニ不臭、七ニ飲時ノ不損喉一、八ニ不傷腹一矣、金龜者地天也、妙高山王者梵ニハ云蘇迷盧、古ニハ須弥也、十六万

由旬ノ山也、四宝所成者須弥ハ北面ハ金、東面ハ銀、南ハ(大カ)瑠璃、西ハ(面)頗胝迦ノ四宝所成ノ山也、七金山等者第一ヲ云持双山一、第二ヲ云持軸山一、第三ヲ云口擔木山一、第四ヲ云善見山一、第五ヲ云馬耳山、第六ヲ云象頭山一、第七ヲ云尾民達羅山一、上ノ七ハ同金所成也、第八ヲ云鉄圀山一鉄所成也、山間有河者第一ノ河ハ広サ八万由旬、第二ノ河ハ四万、第三ノ河ハ二万、第四ノ河ハ一万、第五ノ河ハ五千、第六ノ河ハ二千五百、第七ノ河ハ千二百五十、第八ノ河ハ三億二万二千由旬云々、五峰八柱者略出経云有峰ノ楼閣一以八大ノ金剛柱一成一宝楼閣一矣、五峰ハ中央四方ナリ、擬ニ五仏宮殿一八柱ハ喩葉蓮台云々

小金剛輪等事

成輪壇者成万茶羅身者三昧ヤ万茶ラ也、成法界万タラ者(受茶羅)法万タラ也、大方タラ者五大形也、皆成万タラ身者羯磨万茶羅也、啓請者小金剛輪壇及供養ノ具悉備ル間金剛界ノ万茶ラノ聖衆ヲ召請スルヲ云啓請ト也、次聖衆来臨ノ時ニ小金剛輪ノ々壇開四門ヲ奉レ入レ聖衆一云開門ト也、聖衆

来臨スル間アツク以テ伽陀讚嘆スル云啓請伽陀ト云々

百人名讚ノ事

瑜祇經云、誦ヘシ妙伽陀一百八名大金刚吉祥無上勝无上
 勝讚一曰、バザラサトバマカサトバ、バサラアランジャ
 マカアランジャ、バザラソキシママカソキシマ、バザラ
 エンノウマカエンノウ、バザラクシヤマカクシヤ、バサ
 ラシントマカシント、已上大日一尊ノ総徳讚也、バザラ
 アキシユビヤノウボソトテイ、バザラソハムバナウボソ
 トテイ、バザラシツチノウボソトテイ、バザラダドベイ
 ナウボソトテイ、

已上ハ五仏ノ別徳ノ讚ト云々、残讚ヲハ望瑜祇經ニ可見之、
 広多マ多故略之、金刚頂（曼荼羅）大万荼ラ広大儀軌品云、一百八讚
 云我レ礼ス金刚手トヲ、金刚王ト妙覺ト金刚鉤ツト如来ト不空
 王ト金刚ト礼ス、金刚勇ト大心金刚、諸ノ如来ト普ト金刚
 神初ト金刚弓トヲ、金刚善ト薩埵金刚戯ト大適ト歡喜王ト金
 剛ト我礼ス金刚喜トヲ、金刚宝ハ金刚空大宝ト空蔵ト金刚
 豊我礼、金刚藏金刚威大燄金刚曰仏光ト金刚光ト大威ト
 我礼ス金刚光トヲ、金刚幢善利ト金刚幡ト妙喜ト宝幢ト大

金刚ト我礼ス金刚利トヲ、金刚大笑金刚笑ト大奇ト愛喜ト
 金刚勝ト我礼ス金刚愛トヲ、金刚法ト善利ト金刚蓮ト妙淨ト
 世貴ト金刚眼我礼ス金刚眼トヲ、金刚利ト大乘ト金刚釵ト
 大器ト妙吉ト金刚染我礼ス金恵トヲ、金刚因ト大場ト金剛
 輪ト理趣ト能転ト金刚起ト我礼金剛場トヲ、金刚語ト妙明ト
 金刚誦ト妙成ト无言ト金刚成ト我礼金剛語トヲ、金刚業ハ
 教令ト金刚広ト、〔宋書〕「次第ニ為主一者三寶院口伝云、為
 地主一者堅牢地神即不動也、不動ハ台蔵ノ大日菩薩ノ智体
 也、住此三昧者不動三摩地也、行者住スルハ不動三摩地ニ
 速疾ニ成ニ堅牢地神不動体ト也云々、胸中ノラン字ハ正執報殿
 前一射ノラン字ハ依報也云々

〔宋書〕
住法界平等觀

三寶院口伝云、当流ニ雖不用一十二真言王ノ布字者アンハ
 頂、ケンハ右耳、アンハ左耳、アクハ額、サンハ右肩、サ
 クハ左肩、カクハ咽、ランハ臍、ラクハ腰、バンハ左右
 股、バクハ右左ノ足、ウンランラクハ身業、カラカクハ語
 業、ランラクハ意業云々

秘密八印ノ事

善無畏三藏ノ図シ給台蔵現図万茶ラハ、中台大日・遍照金剛、東方宝幢仏・福聚金剛、南方開敷花王仏・平等金剛、西方无量寿仏・清浄金剛、北方天鼓雷音仏・不動金剛、東南角普賢菩薩・真如金剛、西南角文殊師利菩薩・吉祥金剛、西北角觀世音菩薩・正法金剛、東北角弥勒菩薩・迅疾金剛云々、経疏ト阿闍梨所伝トノ万茶ラト一同也云々、大日経秘密八印品ニハ説八印一品ニハ説八印一故、且約彼ニ秘密八印云々、但経疏ノ万茶羅西北角弥勒、東北角觀音云々、此許為異満足一切知々遍法界無所不至トノ二印二明ハ中台大日也、故上下合シテ秘密九印云々

遍智院ノ事

遍智院ハ現図万茶羅ニハ第一ノ上方也、台蔵界ハ東方タラ故木像ノ万茶ラノ時ハ東方也、現図万茶羅ニハ遍智院七尊也、次第ニ南ヨリ往北一、第一ニハ大安楽不空菩薩ナリ、金剛部ノ仏母ナリ、金剛部ノ一切諸尊此ヨリ出生スト云々、第三ハ一切如来ノ智印即三角智印也、万字也、今ノ次第一切仏心是也、通五智四身ニ云々、第四ニ仏眼仏母三部ノ惣仏母一切ノ諸仏此ヨリ出生スト云々、今ノ次第ノ虚空眼

妃是也、第五ニ七俱胝仏母蓮花部ノ母也、蓮花部ノ一切諸尊此ヨリ出生スト云々、此レ即准胝觀音也、故今ノ次第ノ一切仏心ノ虚空眼明妃ト一切菩薩合シテ遍智院也、但図万茶羅三智印ノ上ノ南ニ優楼頻螺、迦葉有之一、上ノ此ニ伽耶迦葉有之一、山門ノ義ニハ此レハ上ノ釈迦院ノ眷属也、然ルニ釈迦院狭故図スト遍智院ニ云々、東寺義ニハ遍智院ニハ居三部五部十界ノ等ノ能生ノ仏母故所生中ニ且挙二ノ耳耳乗一頭六道ト縁覚ト菩薩ト仏一云々

觀音院ノ事

現図万茶ラニハ觀音院ハ北方也、主廿一尊使者十六尊主伴合シテ三十七尊主廿一尊者蓮花部發生菩薩・勢至菩薩・毘俱胝菩薩・多羅菩薩・大明白身菩薩・馬頭明王菩薩・大随求菩薩・卒都吉祥菩薩・耶輸多羅菩薩・如意輪菩薩・大吉祥大明菩薩・寂留菩薩・彼葉衣菩薩・自身菩薩・豊財菩薩・不空縑索菩薩・水吉祥菩薩・大吉祥及菩薩・自処菩薩云々、現図ノ觀音院ニハ无ニ地藏菩薩一云々

薩埵院ノ事

現図万茶ラニハ薩埵院ハ南方也、主廿一尊使者十二尊也、

住伴合シテ三十三尊也、主廿一尊者発生金剛部菩薩・金剛鉤女菩薩・金剛手持金剛菩薩・(重複与カ)金剛菩薩・金剛薩埵菩薩・持金剛鉞菩薩・金剛拳菩薩・忿怒猊尊・虚空无垢持金剛・(金剛)〃〃窄菩薩・忿怒持金剛菩薩・虚空无边超越菩薩・金剛鑲菩薩・金剛持菩薩・住无戲論菩薩・金剛輪持菩薩・金剛悦菩薩・適悦金剛菩薩・金剛牙菩薩・離戲論菩薩・持明妙金剛・持金剛利菩薩云々、薩埵院ヲ亦云金剛手院ト云々、金剛手ハ薩埵ノ物主云々

持明院ノ事

持明院ヲ現凶万荼羅ニハ云五大院ト西方也、南ヨリ北次第々(卷)一无動尊、此ハ台藏ノ三部ノ教令輪也、第二ニ勝三、第三ニ般若菩薩、第四大威徳、第五ニ降三世云々、勝三世、降三世云々、勝三世ノ本有ノ身也、亦云聖三世トユキ経遜婆明王此ト也云々

釈迦院ノ事

現凶万荼羅ニハ釈迦院ノ東方也、三十九尊也、中央釈迦、(釈迦)々々ノ左ノ上ハ観音、左ノ下ハ無能勝、右上虚空蔵、右下無能勝妃、已上五尊也、(目)自傘蓋仏頂・勝仏頂・最勝

仏頂・光聚仏頂・除障仏頂・大転輪(金脱輪)・々仏頂・无边音声仏頂・如来毫相目連頂菩薩迦葉舍利弗多摩ヲ跋香辟支仏梅檀香辟支仏等委細望万荼羅(曼荼羅)ニ知之云々、無量声仏頂ノ段ニ遏迦印者二宝院口伝云、天台ニハ此印理供養ノ闕伽印ニ用之云々

文殊院ノ事

現凶万荼羅(曼荼羅)ニハ文殊院ハ東方也、廿五尊也、中央ハ文殊、(文殊)〃〃ノ左ノ上ハ普賢、左下ハ対面護、右ノ上ハ観音、右ノ下対面護、已上五尊也、光納童子・无垢光童子・計設尼童子・烏婆計設尼童子・持惠童子・質多(羅)ラ童子・召請童子・不思議童子・宝冠菩薩・月光菩薩云々、此外ニ使者五人日天子眷属、已上廿五尊也

除蓋障院ノ事

現凶万荼羅(曼荼羅)ニハ除蓋障院ハ南方也、九尊也、悲愍菩薩・破惡趣菩薩・施無畏菩薩・賢護菩薩・不思議惠菩薩・悲施潤菩薩・慈発生菩薩・折諸勢惱菩薩・日光菩薩云々

地藏院ノ事

現凶万荼羅(曼荼羅)ニハ地藏院ハ北方也、九尊也、除一切憂真菩

薩・不空見菩薩・宝印手菩薩・宝光菩薩・地藏菩薩・宝手菩薩・堅固深心菩薩・除蓋障菩薩云々

虚空蔵ノ事

現凶万茶ラニハ虚空蔵院ハ西方廿尊也、中央ハ虚空蔵菩薩・无垢遊菩薩・蘇波胡菩薩・金剛菩薩・蘇悉地羯羅菩薩・万タラ菩薩・纒発心転法輪菩薩・生念処菩薩・忿怒鉤観音・不空鉤観音・千手観音・同使者四尊・金剛蔵菩薩・同飛天二尊・十波羅密菩薩、已上廿八尊及上来院々ノ諸尊ノ異名等悉可知之云々

蘇悉地院ノ事

今ノ次第ニハ無之一現凶万タラニハ西方八尊也、金剛王明菩薩・金剛持菩薩・甘露軍荼利菩薩・不空金剛菩薩・不空供養菩薩・孔雀明王菩薩・一鬘ラ刹・十一面観音云々

外金剛部院事

現凶万茶ラニハ外金剛西方ニ有之、二百五尊也、東方梵天・帝尺・日天・四天色ノ天等、南方火天・焰魔天・大山符君等、西方ハ月天・ラ刹天・水天等、北方ハ摩訶羅天・毘那夜迦天等、次第現凶ト凶校合シテ可知之云々

七曜九執十二宮神ノ事

七曜者日曜・月々・火々・水々・木々・金々・土々云々、九執者九曜也、上ノ七曜ニ加羅睺ト計都ト、十二宮神ト者正月ハ魚宮、二月ハ羊宮、三月ハ牛宮、四月ハ男女ト、五月ハ蟹宮、六月ハ師子、七月ハ双女々、八月ハ秤量々、九月蝎々、十月弓々、十一月ハ摩竭々、十二月ハ賢瓶宮云々、正月生タル人ハ魚宮為本ト余ヲ准知之

二十八宿ノ事

昂宿・畢々・觜々・參々・井々・鬼々・柳々、已上七宿ハ東方ニ在之、故ニ現凶万タラノ東方ノ外部中ニ有之一、星宿・張々・翼宿・軫宿・角々・允々・弓々、已上七宿ハ南方ニ有之、故ニ現凶万タラノ南方外部ノ中ニ有之、一房宿・心々・尾々・箕々・斗々・牛・女々、已上七宿ハ四方有之、故ニ現凶万茶ラノ四方ノ外部ノ中ニ有之、虚宿・危キ々・室々・壁々・奎々・婁々・胃、已上七宿ハ北方在之、故現凶万タラ北方ノ外部中ニ有之

四方四大護院ノ事

今ノ次第ノ四方四大護院ハ、経疏ノ万茶ラト阿闍梨所伝ノ

万茶(曼荼羅)ヲトニ全同也、而ルニ現凶万茶羅ニハ四大護院闕スル故
 十二院万(曼荼羅)ヲ也、一ニ中台八葉院、二ニ遍智院、三ニ觀
 音、四ニ薩埵院、五(五)ニ々大院、六ニ釈迦院、七ニ地藏院、
 八ニ除蓋障院、九ニ虚空藏院、十二文殊院、十一ニ蘇(悉脫)地
 院、十二ニ四方ノ外金剛部院云々、此レ前後四重左右三
 重也

二守護門ノ事

次第相向守護云々、阿闍梨所伝ノ万(曼荼羅)ヲノ第一重ノ四門ニ
 相向守護門者不可越護門者云々、經疏万(曼荼羅)ヲニ同此レニ
 也、而ニ現凶万(曼荼羅)ヲニハ無守護門一云々

如来身会事

次第ニ已上如来身会云々、上ノ大恵刀ヨリ乃至一切法平等
 開語マテ(甘脫)ノ五ノ印明此レ如来身也、三宝院口伝云、余流ニ
 ハ如来身会ヲハ秘密八印ノ次ニ置之^一、此流計リ至此ニ置之
 意ハ如来ノ諸相成就シテ、為ニ入我々(我)入ノ觀ニ入(カ)置之^一
 云々、此レハ中台八葉ノ院ノ撰也云々

送請車輅ノ事

次第ノ奥ニ有奉送偈并ニ真言云々、前ニ定テ可有召請一覺タ

リ、是以テ金剛鉤ノ前寛琳ノ次第ニハ有ニ奉請偈并送車輅五
 輪^一、奉請偈云、奉請大日遍照尊、刹塵海会、諸如来菩
 薩金剛二乘衆、広大樓閣普雲集、無辺聖皆証知、我今如
 仏淨二界成身、建立万(曼荼羅)ヲ種々莊嚴、今已竟不捨悲願而
 降臨唯願聖衆、滿本願撰受自他成悉地云々、取香呂若用
 車輅印^一、但ニ三院レ宝無直ノ口決^一故用否任意云々

本尊加持并正念誦事

本尊加持外五古印ノ印アビラウンケン八返也、毫相及加
 持咒珠ヲハ此ニハ略之^一、次住定印ノ下ハ入我々(我)入也、次
 本尊加持如先^一、次正念誦(念誦)リハ加持シテ入レテ蓮花合掌
 一ニ、ラン字七返(返)、ハン字七返、本尊ノア字七返、アビラ
 ウンケン七返、淨珠真言七返、次我欲拔濟無余界無尽一
 切有情故我身法尔本有レ所法界三昧令現前一切衆生所希
 求世間出世殊勝願我修三密加持力速得成就入阿字次旋轉
 シテ次第ヲハ明略曰アビラウンケン百返、次入蓮花合掌ニ
 誦シテ修習念誦法以此勝福田一切諸有情速成大日尊一念
 誦ヲ收答(答)ニ次結定印下ハ字輪觀也、アバラカキヤキヤカ
 ラバア、アンバンランカンケン、ケンカンランバンアン

ト二重ニ誦ヘシ、次第ニハケンカンランバンアンノ逆誦略之歟云々

讚普供養之後鈴等事

後供養ノ阿伽ノ次金剛合掌ヲ心略ノ誦之ヲ、次金剛合掌ヲ誦轉明妃ノ真言ヲ、次三力偈、次小祈願普供養、摩訶毘盧遮那仏普供養兩部諸尊護法所設、哀愍護持消除增長恒受无边決定、次札仏南无摩訶ヒルサナ仏・南无宝幢仏・南无開敷花王仏・(南无)无量寿仏・(南无)天鼓雷音仏・(南无)普賢菩薩・(南无)文殊師利菩薩・(南无)觀世音菩薩・(南无)弥勒菩薩・(南无)阿哩耶阿遮羅曩駄・縛曰羅遜婆你・(縛曰羅)軍荼利・(縛曰羅)毘曼德迦・(縛曰羅)葉刃・南无大悲台藏界一切諸仏菩薩摩訶薩・(南无)金剛界一切諸仏菩薩摩訶薩、次後鈴、次廻向取香呂一金一丁所修功德乃至廻向无上大菩提、次置香呂一九方便第九回向方便一誦次解界、次奉送偈及明如金剛界次第一、次三部三昧耶、次次普礼、次出道場云々、三宝院口伝云余一ハ皆略之一云々、次第ニ雖有余印明等略之一云々

已上台藏界次第ノ分廿六ヶ条如形記畢

護摩次第ノ事

不動護摩私記云々、延命院ノ作ノ四度随一ノ護摩次第余者略ナルカ故覚洞院ノ勝賢僧正仰付テ遍智院ノ成賢僧正一ニ為末代鈍ノ真言行者と私調詞ヲ副エテ記録シ玉フ次第名不動護摩私記一ト云々、仍醍醐流ニハ專此レ護摩ノ秘次第也云々

作壇略作法ノ事

初行ノ初夜着座ノ初ニ先鍬スキノ印言廿一返、印ニテ七返八返ヨリ念珠ニテ数ヲ取之加持泥印言五色糸印言モ准之弁供、(弁供)カカノ時蘇油飯器等蓋取之一云々

護摩壇時ノ十二天懸次第事

左東方伊舍天・火天・羅刹也、風天・梵天・日天
北方五大尊
右西方帝尺天・焰魔天・水天・毘沙門天・地天・月天

木像五大尊立事

金宝抄ノ図中央不動・巽降三世・坤軍荼利・乾大威徳・良金剛夜叉云々、何方向護摩堂以之一為本方一ト可立之一云々

<p>梵ニハ扇底迦羅此ニハ云、息災向北方ニ修之一、初夜ヨリ始之仏部尊浄衣ハ白色、爐ハ円形白色底ニハ書輪一、四方ニハ三古、四隅ニハ一葉ノ蓮、壇木ハ椎木・榎木・檜木・桑木等無毒甘味木云々、加持物ハ胡麻、薬種ハ白木・人参・甘草・遠志・芍药等、壇木ハ八寸四分、乳木ハ六寸、此</p>	<p>息災護摩ノ壇様事</p>	<p>金剛夜叉 降三世 不動 軍荼利 大威徳</p>	<p>金剛夜叉 不动 軍荼利 大威徳</p>	<p>金剛夜叉 不动 軍荼利 大威徳</p>	<p>金剛夜叉 降三世 不动 軍荼利 大威徳</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------	--------------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------------

レハ周尺也云々、除難悉地也、壇木乳木同円ニ削之云々

壇益護摩壇様ノ事

梵ニハ補瑟底迦此云、增益向東方ニ修之晨朝ヨリ始之一部尊浄衣黄色、爐ハ四方黄色底ニ書三古、四方ハ宝珠四隅一葉蓮云々、壇木ハ栗木・柿・榎木、加持物ハ米ハ染メ、薬種ハ天門冬・訶利梨勒・桂心・地黄・枸橼等、福德悉地、壇木・乳木同四方ニ削之一、委細六種護摩指図之一云々

調伏護摩壇様等ノ事

梵ニハ阿毘遮嚕迦此云、調伏一向南方ニ修之、日中ヨリ始之一忿怒尊浄衣ハ黒色、爐三角黒色底面独古、三角ニハ一葉蓮、四方ニハ独古、壇木ハ苔練木・桃木・有刺・有毒・苦木等云々、加持物ハ鉄ノ末スリ米和生塩一、薬種附子・菖蒲・鬼臼・鬼箭・射テ也、豆ヲ細米ノ和合ス、油ニハ麻・赤芥子等油、檀木・乳木ハ三角削之云々

鈎召護摩壇様等ノ事

梵ニハ補瑟微迦此云、鈎召一向諸方ニ修之一切時分始之一金剛部等浄衣ハ雑色、爐ハ金剛ノ形雑色底ニハ画鈎一、四方ハ落敷、檀木刺木等、三宝院口伝云、此云鈎召ノ護摩ヲハ

准敬愛^ニ修之一^ニ云々、大体准以下ノ敬愛故、菓種等略之一^ニ云々

敬愛護摩壇様事

梵^ハ縛^{ハシ}始^シ迦^タ嚩^タ拏^タ此云、敬愛^ト向^ニ西方^ニ修之一^ニ中夜^{ヨリ}始^シ之^ヲ蓮花部尊淨衣ハ赤色、爐^ハ蓮葉形底^ニ画^ニ蓮花^一赤色ナリ、檀木ハ花木・梅木・桑木等、加持物ハ白芥子、菓種ハ天門冬・相思子^{ヒサカキノミ}・訶梨勒等、委細六種護摩ノ図^ニ有之一^ニ云々

延命護摩壇様事

延命護摩壇様大都准^増僧益護摩^ニ修之、三寶院口伝云、延命護摩^ヲ依^ニ增益^ニ修之一^ニ、但爐形四方^{ヨモ}ナレトモ、少異^ニ古等云々

外護摩内^(護摩)リリ事

外護摩者直^ニ火爐^ニシテ檀木・乳木・五穀等^ヲ用意ノ燒之、云外護摩^ト也、其故ハ心外ノ花香木油等ノ故ナリ云々、如上六種護摩ナリ、内護摩者不向^ニ護摩^一唯^ハ心月輪^ニ觀^ニ本有ノ諸尊等^一也、委有内護摩次第口決等追可尋之一^ニ云々、亦云^ニ理^ノ云護摩^{トモ}一^ニ甚深云々

芥子加持等ノ事

実賢僧正ノ護摩ノ師伝抄云、取芥子^ヲ投^{コト}爐^ノ中十方^ニ十度ナリ、護摩^ニハ以^テ爐^ヲ為^ス本^ト故也云々、又云、爐ノ方ノ散杖^ヲ為^ス頼^ル口^ノ散杖^ト爐^ノ外カナル散杖^ヲ為^ス灑^ス淨ノ散杖^ト云々、護摩略觀抄道範云、芥子ハ堅^ク辛^性ニシテ有^ニ降^伏用^一、仍^ソ添^ハ眞^言加^持一^ニ作^ス降^魔ノ結^界一^也、投^ルハ十方^ニ破十方ノ魔軍也、又龍孟菩薩^ニシテ白芥子^ヲ打^開ニ鉄塔ノ扉^ヲ入^テ法界塔^ノ中^ニ受^テ玉^ヲ金剛薩埵^ニ灌^頂一^ヲ、今ノ行者ノ芥子^ヲ加^持又打^ニ開^ニ十方法界塔婆^ヲ請^ルニ諸^ハ仏^ハ聖^衆ノ証^明一^聴計^ヲ之^ヲ可^ク作^ス之^一、又直^ニ取^テ独^古一^ヲ加^持ス^{ヘシ}芥子^一、為^ス正流^ト之一^ニ云々

火天段ノ十支事

護摩略觀抄云、火天段ノ十一支ハ底ノ一支ハ根本^ニ无^明也、次四支ハ貪^嗔癡^慢也、上ノ六支ハ疑^ト身^見ト^辺見^ト邪^見ノ^見聚^見ト^戒禁^取見^ト也、合^{シテ}根^本十^支隨^眠也、无^明ハ根^本物^体也、火^即火^天也、即^ハ毘^盧遮^那自^性智^火也、扇^クハ火^ハ依^風一^増ス^ニ其^勢力^一、即^ハ自^性ノ智^火加^ニ解^脱ノ^惠風^一ヲ^燒ニ^尽煩^惱一^ノ作^業也云々、諸^尊仮^ノ十^支十^煩惱^云々

大杓三度小杓三度ノ事

師伝抄云、以右手一ヲ大杓・小杓一ヲ一度ニ取テ移ニ左手一入蘇油器ニ、次小杓ニ右ニ乍取油汲テ大杓ニ入事三度、次小杓ヲ左手ニ移テ以ニ右手一ヲ大杓ヲ小杓ノ上ヨリ取テ爐ニ入、如此一ノ三度、了テ大杓ヲ本所ニ返置之一、次以右手一ヲ取小杓一ヲ三度供之一、次可置小杓一ヲ段々准之一云々

二段五段等ノ護摩ノ事

二段護摩者火天段十一支諸尊十支合二十一支ニシテ修之、
一ニハ自行、二ハ略義ト云々、五段護摩者廿一支ノ上ニ部主段四支本尊段六支世天段五枝合卅六支也云々、四段護摩者毘沙門護摩ニハ无部主段一故但護摩略觀抄云或二段六段等ノ行義之様モ有之一云々、此レハ小野ニハ无此法則、広沢ノ法則歟御修法等ニハ必ス五段ナルヘシ云々

本尊段百八支乳木ノ事

師伝抄云、以右手一ヲ取乳木本一、左手ニ逆ニ移テ本ヲ上ニミニシ末ヲ下モニナル横ニ持左手一、右手ニテ三枝ヲ三度ニ取テ蘇油ニ指テ仰テ横ニ一枝ツ、投也、一咒一焼云々、護摩略觀抄云、百八枝ハ断ニシテ百八煩惱一証ニ百八三昧一成ニ百八

尊一ヲ義也、又三枝ツ、卅六度ニ焼之ヲ焼ニ卅六ノ俱胝趣ノ衆生ノ煩惱業苦三道一ヲ卅六尊ノ功德ノ義也、是以聖位経云仏徳三十六皆同自性身并以法界身惣成卅七矣

九種ノ供物ノ事

護摩ノ略觀抄云、漱歌口・塗香・蘇油・乳木・飯・五穀・切花・丸香・散香、上ノ九種ハ是レ六種供養也、謂漱口ハ闍伽也、塗香ハ塗香也、蘇油ト乳木トハ灯明也、飯ト五穀トハ同飯食也、切花花々也、丸香ト散トハ俱ニ焼香也、已上六種ノ供養ハ是レ六波羅ハラ密也、檜尾置中口決云、檀水戒香花忍辱進焚禪飯般若灯精進六遍六置中間矣

加持物等ノ事

護摩略觀抄云、灑淨ハ是焼煩惱一後潤ニ仏種一生ニ法性芽一ヲ義也、菓種ハ是速疾成就ノ法菓也、加持物ハ互相加入彼此撰持義也等々

九種相応護摩ノ事

護摩雜要抄云、所望ニハ五大虚空蔵・多羅尊・愛染王・千手・大威徳金剛・夜叉金剛・童子・北斗・聖天云々、除災ニハ薬師・尊勝・聖観音・千手・准胝・不動・北斗・

明立ル間ハ畔字不動真言、糸引間ハ四大明王真言等云々、
真言習有此事ニ能々明師ニ可尋之云々、鳥居ノ長ハ三尺
也、憲深口決云、鳥居ノ長ハ未定也云々

護摩中間ノ用心ノ事

勒護摩^一間制足セハ万事謹雜衆^一止^二非時食并酒^一中夜不
斷持尊ノ咒誦ヨ不住穢家無臥相^一云々、師伝抄云、護摩
間付器物等^一不作声^一飯ヒ杓ニ供物等付タリトモ物アテ、不
可叩間不振落之^一、藥種ノ事不加持供之^一世間ノ藥ヲ不
洗^一供人^二故准世俗法^一云々、四面花ハ日中計ト云々、仏
供々スルコトモ日中計云々、但開白ニハ如日中^一云々、四面
花供スルニ有二説、前供養ノ時四面右方一度ニ供之^一後供
養ノ時ハ四面ノ左方一度ニ供之^一、一説ニハ行者方ヨリ半分ヲ
分テ、右ノ方ノ前供^{（供養）}、左方ヲ後供^{（供養）}云々

為亡者修護摩^一ノ事

常喜院口決云、為亡者修護摩^一者世天段ノ召請ノ時ニ必普
印誦其明^一護摩天ノ次ニ請ヨ之^一、右手ノ掌ヲ舒以天^{（大）}捻シ
テ中^一以風^一ニタヒ召之^一唵普^レ補哩伽哆利恒他薩等多ヤ、
次ニ二十天皆供、了テ焰魔天方ニ三杓供之^一、供ル時ノ真

言ニ同オンソロハヤタ、キヤタンソロハランソソワ
カ、若亡者生^{（タラ）}善処^一者滅惡趣ノ段ノ了ニ供之供法如上
云々

破壇作法ノ事

小野僧正抄^{（仁）}云、壞壇ノ時ニ住妙觀察智印^一觀ヨ大壇ノ中
ニ有ア字、此^レ地輪ノ種子也、此字反シテ成大壇^一ト法然道
理ノ所作也、而ルニ又有カン字反成^二大風輪^一ト、即吹破^二テ
地輪^一所謂盛者必衰ノ意也云々、尔ハ如次第ノ奥クノ破
壇^一云々

五大尊異名事

五大尊合行次第云、不動^一云真言王尊降三世^一云枳哩^{（枳）}
尊^一、軍荼利^一云甘露王尊^一、大威德^一云金剛壇尊、金
剛夜叉^一云金剛鉤蘭尊^一云々、依之キリ^{（キリ）}ノ真言者降三
世ノ真言ナリ

真言修行者時分事

醍醐口決云、三時者寅午戌云々、文殊儀云、^{（不）}空朝^ト午^ト
辰^ト中夜^ト四時^トヲ為定准矣、仁王般若念誦法云、^{（不）}空
從^二五更^一至^二於晨朝^一為^二初時^一、從^二日午^一後至^二於未

ノ時^ニ為^二第二時^ト、從^二黄昏^一至^二於中夜^ニ為^二第三時^ト、
 從^二中夜^一至^二五更^ニ為^二第四時^ト矣、戌・亥・子・丑・
 寅云^ニ五更^ト、至於五更者第五更即寅時也、時処儀軌云、
 四時^ト三時^ト一時^ト無間時^ト云々、四時^ト如上一時者隨得
 暇^{イトマラ}、
 一、無間時^ト八十二時無間斷修之^ヲ云々、
 御本云 尾州大須真福寺ニシテ時ノ住宝生院ノ

権大僧都政祝記之

門流ノ学頭式ノ分ヨリ外ハ不可見之^ニ云々

政祝六十九在判

永享八年^{丙辰}五月中記之^一

听書

一、仏法ノ寸尺事、周ノホク^(穆)王ノ時仏出世シテ仏法ヲ弘メ玉
 フニ依テ、周ノカネヲ本トシテ壇図ナトヲ積ルナリ、番匠カ
 ね一尺ヲ周カネ八寸ニ当ル物ナリ、是ニテ諸事ヲ可知矣也
 一、壇ノフチヲ書札ニテハ食堂ト云ナリ、四面器ナト何れモ仏
 供食堂ニ何時モ可立物ナリ、フチノ上ニ二寸八分ト云々
 一、鳥居ノ長サハ不定ト云々、乍去俊融ノ記四要鈔ニハ二

尺^ニ、三寸有之歟、惣別鳥居ハ護摩ノ時計立之、灌頂之
 時不立之、鳥居ニ糸蒔ク事、中五ツ蒔^レク之ト四要鈔有^レ
 之、小野方ニハ四ケツ鳥居トモニ糸ヒク事下化衆生ト胎ノ
 内証ヲ以テ引広沢方ニ金ノ内証ヲ為^レ本ト上求菩提トヒク
 ナリ

一、護摩ノ本尊ト不動ヲナス事、小野方ニハ胎ノ不動ヲ本尊
 トシ広沢方ニハ金剛ノ不動ヲ為本尊^ト也、此故ハ小野方ニ
 ハ金台共ニ護摩以前ニ臨ルニ依テ胎ヲ為本尊、広沢ニハ護
 摩前金剛計臨ルニ依テ金ヲ為本、然間灌頂モ小野ハ六流
 共ニ初金後台ト引広沢初台此金^(虫損)「ルナリ」

一、糸之ヨリ様ノ事ハ上古ハ金ヲハ白青黄赤墨ト重テ右エヨ
 リ、胎ヲハ白赤黄青墨ト重テ左エヨリ被成ト云々、近代ハ
 重ね様ヲハ万^レ先ノヨリ様ハ金台共ニ左リヨルナリ、是カ不
 二ノヨリ様ナリ、其故ハ金ヲハ西ニカケテ東ニテ南エ向テヨリ
 台ヲハ東ニカケテ西ニテ是モ南エ向テヨリナリ、但口伝アリ
 一、壇ニ糸ヒク大事大金剛輪印明ヲ結テ丑寅方ヨリヒクナリ、
 是ヲ随方ノヒキ様ト云ナリ、觀心ノヒキ様ニハ何レノ方ヨリモ
 ヒクナリ、丑寅ヨリ始テヒクヲ随方ノヒキ様ト云イ余ノ方ヨリ

ヒクヲハ観心ノ糸ノヒキ様ト云ナリ、随方ト云心ハ丑寅カ方角ノ始ナレハ方角ニ随テヒク心ナレハ随方ト云ナリ、観心ト云心ハ方角ヲ観シテヒク心ナレハ観心ト云ナリ

一、護摩ノ糸ヲハ惣別列シテヨリヒク物ナリ、其故ハ護摩ノ時野沢共ニ鳥居ヲ立ル物ナレハ、灌頂ノ時ノ糸ヨリ長キ物ナリ、サル間灌頂ノ糸ヲ護摩ニヒク時ハ、余ノ糸結付テモ引物ナリ、乍去丑寅ノ方ニテハト、ク物ナリ、タカシテ置分^{ヲク}カミチカキ故結付物ナリ

一、灌頂内壇カサリ様、手日記ニ同ナル故ニ不書之、乍去八祖ハ西ト南ノ隅ヨリ始テ西ニ四祖カケ、東ト南ト隅ノ方ヨリ始テ四祖東ニカケルナリ、是ハ一□^(虫櫃)カマイノ時南面ノ時ノ事八祖ニ小野ナレハ聖法道教直師共三十一祖カ、ル物也

永祿八年 甲子霜月廿八日

宗識(花押)